

33-550



東京府知事男爵千家尊福君序文  
東京府第一部長岡 五郎君序文  
杉原榮三郎演述

清韓實業管見 全

東京 杉原商會

明治  
39 10 15  
内交

拜啓益々御清榮大慶の至りに存候陳者滿韓御視察御歸京後御唱  
導に基き舉行したる本府立學校生徒滿洲旅行之儀陸軍文部兩省  
保護の下に豫定の行程を経て昨十二日無事歸京致し候其報告に  
依れば今回之旅行が智識訓練上に與へたる利益は實に豫期外に  
出でたる趣にて該當學校職員は皆其効果の多大なりしに満足致  
し居候是畢竟貴臺之御主唱之結果に外ならざる儀にて府下教育  
上深く喜悅に不堪候右御報旁謝意を表し度如斯に御座候拜具

八月十三日

千家尊福

杉原榮三郎殿

拜啓 益御清榮大慶の至りに奉存候豫て御配慮に預り候滿洲へ  
旅行したる府立學校生徒職員の一昨十二日無事歸京致候今回  
の旅行たる生徒の見聞を廣めたるのみならず其精神的修養に多  
大の裨益を與へたることは今更申すまでもなく此舉の由て企て  
られたる動機は全く賢兄が彼地を親しく視察せられたる結果熱  
心に夏季休暇を利用し精神的修學旅行の有益なることを勸奨せ  
られたるに基くものにして獨本府立學校の生徒職員並に小學校  
教員のみに止まらず其舉の延いて全國公私立學校に及ぶに至り

しは國家教育上深く賀する所に有之候茲に一行の無事歸朝を報  
じ併せて感謝の意を表し度如此に御座候敬具

八月十三日

岡 五 郎

杉原榮三郎殿

侍 史

## 自序

余は、戦後經營の忽にすべからざるを感じ、本年四月下旬、清韓視察の途に上り、韓國次で滿洲北清一帶の商工業現狀を調査し、六月上旬歸朝するや、同月十六日上野公園不忍池辨天堂書院に於て、知友及都下實業家の會合を辱うし、一場の視察談を爲し、且聊か卑見の存する所を述べしに、該筆記は日本商工新報の連續掲載する所となり、能く其要を盡せり、依りて今回萃めて一小冊子と爲し、茲に知友に頒つと云爾。

明治三十九年八月二十五日大磯別墅歸帆亭に於て

杉原榮三郎識

## 清韓實業管見目次

發端 清國及韓國の視察	一
一、日本と韓國との交通聯絡	五
二、韓國の現狀及商工業の情態	九
三、滿洲の商業と日本の政策	三四
四、北清貿易の現狀	七一
結論 對滿韓意見	九九
商品に對する清國人の嗜好	一一八

# 清韓實業管見

杉原榮三郎演述

## 發端 清國及韓國の視察

今日は、先般清韓兩國を視察致しましたに就て、聊か其視察談を申上げたく存じ  
ます。然るに御承知の通り、甚だ思慮淺薄でありまして、中々諸君に向ひまして視  
察談を申上げらる程の資格も無し、價值も無いのであります、併し出發の際或は留守

其他非常の御懇情を受けました、依て聊か自分が實際に見聞した事を諸君に御報告  
を致し、併せて御厚情を拜謝致したいと存ずるのでございます。

殊に今日、諸君に前以て申上げたい事は、今後の日本人の覺悟は容易ならざる事  
なりと、自分は確信致して居るのであります、其れ故韓國なり、或は清國なりに對

しましての、實際談を申上げても、毀譽褒貶に渉る事、或は何か關係を生じまする事に就ては大に遠慮しなければならぬのであります。況んや私の如き實業に従事して居ります者は、出來得る限り敵を作らんで、さうして此世に處すると云ふのが最も必要であります。今日の場合此日本が、一等國に成りました以上、最早其れ等に對しましては遠慮することは出來ないと思ふのでございます。明白に此事は申上げて、さうして日本人一致協力致しまして、戦後の經營なり何なりすると云ふことは、私は寧ろ其方が宜いと確信致して居るのでございます。或は私の視察談も或る部分に對しては攻撃の様な事もございませうし、甚だ御聽苦しい處もございませうけれども、此等是要するに赤誠の然らしむると宜しく御看過下さるとを願ひたいのであります。萬々一私の視察談にして世に發表され、若しくは自身に聽いた上に於ても、彼は赤誠の餘と云ふ點に於て宥恕せられんことを深く希望致すのであります。殊に今日は御多用の所も願はず御來臨を忝じけなう致しましたことは、自分

の非常に名譽とする所であります。第一に申上げて置きたいのは、所謂旅行の順序、若くは其實況であります。附たり旅裝杯のことの御心得をテョイト申上げて置きたいと思ひます。終りに到りまして、私の様な甚だ思慮淺薄な者でございますが、其實見より起る所の卑見を有つて居ますから、此卑見を私は自分の意見として諸君に申上げ、而して諸君に御賛否を願ひたいと存じます。

て此旅裝の事でございますが、實は私は四月の下旬に日本を出發したのであります。其時の考では、先づ約五十日と云ふ考であつたのであります。其故に六月中旬には歸るのであるから、モウ夏服までも及ぶまい、裕の支度で宜からう、萬々一暑かつたらフランチル、或はセル位ならば丁度宜からうと云ふやうな、實は心得て参りました。然るに中には御承知の方もございませうが、朝鮮、大連は左程でもありません。尤も時候がまだ夏に向つて居らなかつたのですが、天津、北京へ参つた時分には……丁度五月の十九日に天津に到着しました。所が實に暑い、殆ど華氏八十度乃至九

十度で、自分は冬服などで汗がだく／＼出るやうな始末で、非常に困難を致しました、何にも其他に夏服の用意もなし、白いチョッキも實は持つて参りませぬので、非常に困難をいたしました、尤も朝夕は東京とは違つて非常に寒暖の相違がございますが、兎に角暑いことは非常であります、もう天津の人などは無論白綸チルの洋服であるとか、或はアルバカの洋服であるとか云ふやうな、最も東京などでは暑中に着用すべき洋服を今尙ほ着て居る位で、氣候に於ては非常に相違がございますから、今後滿洲及北清、或は南清地方に御出張の御方は、其御用意をなすつて、荷物の多いことは甚だ不便でありますから、出來得る限り荷物は少く、其範圍に於て夏服冬服を御持ちになるが宜しい、中間の服、即ち袷とかセルとか云ふやうな、春秋に着るやうな服は要らない、と云ふのは彼地は冬が過れば直ぐに夏、夏から冬と云ふやうな極く單純な氣候でありますから、中間の服は必要はないと存じます、尤も長く居つた譯ではありませぬが、其土地に居つた人に聽いた上に於て又實際自分が遭遇した

上に於て、實に用意の不足に就て困難を致したのでありますから、此旅裝の點に就ては、既に今日御集りの内には近々彼の地へ御出でになる方もあらうと云ふことを承つて居りますが、總ての御用意は前申上げた如く夏冬の支度が必要である。

### 一、日本と韓國との交通聯絡

○山鐵と釜山の聯絡 是から冬の支度と云ふも可笑しうございますが是から、先き寒いこともありますから、冬服を御持ちになれば大變都合が好いかと存じます、是は旅行の便利として實際自分が遭遇したることからして申上げるのであります。それから此旅行は、私は朝鮮を経て滿洲に参つたのであります、中には直ちに大連に御出でになる方もございませうが、先づ順序から申上げれば大阪を朝の午前五時五十分に此頃は瀛車が出まして、さうして最大急行で馬關へ其瀛車が夜間の八時に着きます、平素は中々二十時間以上も掛るのであります、非常に早くて、さ



うして唯今申上げた如く僅々たる時間で馬關へ着く、さうして山陽鐵道の聯絡船があります、即ち釜山へ参るのでありますが、切符は大阪で瀛車のと一緒に賣つて居ります、此船も千六七百噸の船が二艘あつて釜山及び馬關間を往復して居りまして誠に便利であります、唯チヨット是は御参考に申上げて置きたいのは、山陽鐵道は旅客に對して非常に便利を與へると云ふことでありまして、彼に倣ふて東海道線の官設鐵道なども大分改良をしたのであります、或は給仕を置くとか其他總ての設備が、成程官設鐵道でも斯様に乗客に對して便利だと云ふことを思はしめたのであります。

見 ○食堂の設備 然るに此頃私は山陽鐵道の爲に惜むのは食堂の設備が宜しからざること、それから瀛車から船へ聯絡する迄の間の設備が甚だ不完全なることであります、その食堂の設備が何うであるかと云ふと、常に食堂に附いて居る給仕などが甚だ不親切である、二三十錢の錢を先にやらなければ、客に對して叮嚀の扱ひをせぬ

と云ふやうな風は、獨り私のみではない、皆上等なり中等なりの客は非常に不平を言つて居る、其證據は山陽鐵道は食堂ありと雖も、一人の客も食堂に這入つて居らぬ誠に寂々寥々たる有様であります、此等は誠に些々たる問題であります、従前は競争もあり、山陽としては随分力を其方に競ぐ方ではありますが、所謂官有鐵道と云ふ様な傾から、改良すべき事を改良しないと云ふやうなことがあります、其間乗客若くは人民が非常に不便をすると思ふ、官有鐵道の事は今更私が茲に反對説を唱へた所が仕方がない、其必要もありませぬが、若し官有に成つたならば、當路の人は能く是等の事情から深く乗客を本位なら本位として十分親切に此點に盡されんことを希望する。

見 又此船の聯絡であります、凡そ九時に船が出る、八時に着いて九時に船が出る、其間に手荷物を取る、色々支度を致しますが、僅に小さい待合があつて、それに電燈も點いて居ないものだから、暗い所で、荷物も随分紛失することがある、聯絡船

へ乗るまでは山陽鐵道は全く不便だ、是も實は改良して貰ひたいと思つて居ります。

○玄海灘 其他船に乗るには、乗客が第一に氣遣ふのは風雨であります、私などが馬關を出る時は非常な風雨でありまして、中には乗るのを遠慮をして翌日に延した人もありますが、吾々は豫て聞いて居ります、出る時に風雨の時は、先きへ行つて是が治まる樂みがある、無事の時に乗ると、先きに寄つて颶風其他禍の憂があるといふことを聞いて居りますから、構はずに乗りましたが、果せる哉玄海灘へ参りましたら大きに風が風ぎた、尤も随分對州沖は甚うございましたが、此頃は日和が好うございます、それであるから朝鮮へも容易に渡ることが出来る。

見 朝鮮へ渡る順序はそんなものでありますが、朝鮮へ行くには夜間の十時に馬關を出ると、翌日の八時三十分釜山へ着きますから、十時間餘、約十一時間掛る、てあるから寐て居る内に釜山へ着くといふやうな譯で、此點からいふと實に便利なのである。

## 二、韓國の現状及商工業の情態

○釜山の日韓博覽會 それから釜山であります、私は明治二十五年に一遍彼の地へ参りましたが、今日参つて見ると大に相違して居る、京城へ行く鐵道、所謂京釜鐵道が出来てあります其他萬般の設備が以前私が参つた時よりは非常に進んで居ます、併し商業は不振である、不振と云ふと可笑ふございますが、所謂沈靜であります、別段今戰捷國の日本人が澤山行つて、さうして何か發見したと云ふことではない、極く商業は沈靜である、別段著しいことはない、又悪い事もありませぬ、唯日韓博覽會が出来て居る、是は四月の十五日、若くは二十五日に開會式を行ふと云ふことでありましたが、日韓博覽會と云ふと、日本人と朝鮮人との合同の博覽會であります、然るに一向朝鮮人は出品をしないのです、悪い氣でしないのではない、さう云ふ思想がないのであります、朝鮮人に斯う云ふ物産を出せ、こう云ふ事をすれば殖

産の爲に宜いと云ふことを申しますがナカ／＼解らぬ、解つても其力がないと云ふやうな次第である、實際論より證據で品がないのであります、此點に就て非常に理事廳などでは困つて、私などが見物に行かうとすると、今行つちや困ると云ふことを言つて引止めたりしますが、要するに出品をしないのであります、併し日韓博覽會は世に公にしたのである、尤も前から商品陳列所と云ふものがあつて、是は日本家屋を建築を致しまして、さうして出來得る限り日韓の品物を陳列すると云ふ趣意であります、何分にも朝鮮人に其思想が乏しく出品を容易にしない、それが爲に當事者も心配をして、人を沿道なり其他に出張をさして、海産物でも何でも宜いから出せと云つて勸誘中でありまして、甚だ不幸ながら私は韓人の出品を見ることが出來なかつたのであります。

○事實阪韓博覽會 然るに日本の品は何うであるかと云に、多く大阪市の物が多いのであります、悲しい哉東京市の出品を見ると云ふことが誠にないのである、曉

の星の如くても宜いからと思つて色々見ましたが無い、殊に日韓博覽會を或は阪韓博覽會と云ふ、阪韓のハンは何かと云ふと大阪の阪を取つて居る、此點に就ては私などは東京の人として、東京品がないといふことは實に歎息の外はないのであります、殊に大阪品を悪く云ふのではありませぬが、大阪と云ふ所は最も商賣熱心であります、少しも餘計に、少しも價を安くして賣らうと云ふ方針でありますから、勢ひ粗製濫造の物があつて、私が日韓博覽會を見た時に能く此んな物を博覽會へ出せたと云ふことを感ずる位であります、であるからして此頃は段々に東京といふことを韓人なり何なり非常に頭に入つて來たらしい、東京品と云ふと何となく宜い物がある、保存も宜し、堅牢であるといふ感念を有つて居るやうに實際に見えて參りました、てありますから、此東京に於ける商工業者も、此點に就て宜しく御考へあらんことを希望致します。

○韓國向の嗜好

それから朝鮮は此頃服制を改めた、朝鮮人は如何なるものを着

て居るか云ふと、諸君も御承知の通り白い服を着て居ります、然るに此白い服は非常に不経済であると云ふので着色の着物を着ると云ふ法律が出た、然るに着色と云ふ事に就て別段斯う云ふ色が宜いとか、斯う云ふ色は保存が宜いとか云ふことに就て一定の法律が出た譯ではない、唯色變りの着物を着ると云ふ法律が出た、是も韓又日韓貿易に就て非常に關係がある處で朝鮮人同志も何れも自分等に就て似合ふの實があるか或は容子が好くなるのであるか、是は殆ど迷ふのが當然であらうと思ふ、業それで第一迷ふこと、同時に此の着色の服が朝鮮に行なはると云ふことで、隨分管日本から色物の反物が入つた、淺黄木綿もあり、或は紺色の瓦斯のやうなものもある或は縹子様の物もありましたが、是は先方の事情を知らぬて入れた、日本の反物は大抵二丈八尺位で幅が一尺ばかり且つ縫代が取つてある、縫代が二分三分位ありまして、織出へ行つて房が附いたやうになつて居る、那れは中々朝鮮には適しない、何故かならば朝鮮人は着物を縫ふ上に於て非常に緻密である、布と布を合せてさう

して緻密に縫います、縫代を日本のやうに深く取ると云ふことをしない、だから是から朝鮮へ出すには縫代などは寧ろ附けない方が宜い、織出しの如き房を附たり、或は其他飾りのついたことをする必要はない、終まで反物で、矢張三十吋、四十ヤード位のもが彼方には適合致します。

○韓人の洗濯法と日本反物の失敗

それから今の着色の反物が日本から入つて失敗したのは、朝鮮人の妻君のする仕事は何であるかと云ふと、良人の着物を洗ふ外用はない、朝起れば晩まで、小さい川のやうな所で洗濯をして居る、日本人の洗濯のやうに揉むのではない、彼方では篋のやうな形の木でもつて丁度砧を擣つやうに見石の所へ持つて行つてトン／＼叩き附る、油染とか其他の汚れの取れるまで叩いて居る、其故大抵の着色のものは脱色する、染色材料の良いものを用ゐますれば脱色することはありませぬけれども、中々普通の日本人の着る紺だとか、或は淺黄など云ふものをそんな事をされましたら忽ち脱色する、實に一種言ふべからざる、鼠

であらうか、殆どベストであらうと云ふ疑はしい色となつて、再び着用することも出来ないやうな物になるのですから、着色の品物が朝鮮人の嗜好に適さないと云ふことは是は實際の御話であります。

○英人のサンプル 前是英吉利マンチエスターでは朝鮮の服制が更つたと云ふことを聞くや、直ちにサンプル、即ち見本而かも三十吋四ヤードのものを數多持つて來た、其見本を商店に就て見ましたら、實に到れり盡せり、どうして英吉利人が斯う云ふやうに韓國の事情に通じて居るかと思ふ位、縫代はなく全部反物であつて、織終まひに房の様な物が附てたり何かしたものは無い、さうして染物或は織合せ或は織下し、色々の種類を持つて來た、決して綿布だからとて、木綿物ばかりぢやない、瓦斯のやうなものにしたり、或は縹子用の物にしたりするやうな工合で、非常にサンプルに就て力を盡して、さうして此等を廣めやうとして居るマンチエスターは非常な力を盡してやつて居ります、日本の商人のやり方とは非常な違ひで、見本

に錢を使ふこと又廣告をすると云ふことを進んでする、此點に就て著しく驚いた、其所で驚いたのは少し遅れたやうであります、實際英吉利人、亞米利加人などは非常に力めて居ります、殊に今日は此綿布、今申上げた如く兎に角朝鮮人としては着色の服はいけないので、昔の白い木綿の服に戻つた、其木綿の輸入が朝鮮は一番多いのであります。

○輸入の増加喜に足らず 今までは英吉利からの輸入が非常に多かつた、然るに今日は日本が朝鮮に對しての輸入は英吉利よりは多くなつた、數字のことは過ちがあるか知れませぬが、一千二三百萬圓、朝鮮の輸入概算を見るとさうであつて、英吉利が數年前までは第一に居りまして、殆ど五割六割の多きに上つて居たと云ひます、然るに今日は反比例になつて、日本が英國の地位に成つて、英吉利は日本より下位に居ります、誠に日本として喜ぶべきとてございしますが、此喜びは當てに成らぬ喜びであります、何故かと云ふと、其重なる輸入品は如何なる物が多いかと云ふ

と、鐵道材料が多い、枕木なり或は其他の器械なり軌條なり總て鐵道用のものが中々に多いのであります、其故に日本は急に英吉利を凌駕したのである、と云ふは日本が京釜鐵道を敷設するとか其他色々致しまして、此の材料が澤山である、故に今日の表から見ますると、大分日本は進んだやうであります、其實日本が自分の物を自分が持つて行つて、而も關稅を朝鮮に拂うと云ふ點になると餘り喜ぶべきことではあるまいと思ふ、てありますからして今後朝鮮へ對しましては、英吉利の事を申上げましたが、進んで一つ日本人がやつて見たいと思ひます。

○韓人の運搬法 其他此韓人の運搬は何うであるかと云ふと、是は皆脊中で負つて居ります、一丈二丈位ある大きな材木を横に脊負つて行きますので、其者が通ると殆ど往來が止まるのでありますから、是等も何うかして改良しなければなるまいと思ひます、て婦人は矢張習慣でありませうか、頭でもつて運搬をして居ります。

○韓人の通貨 それから通貨でございます是は第一銀行で隨分札を發行して居り

まして、滋澤さんの顔が、丁度、神功皇后の御眞影のやうに附いて居つて通用されて居ります、物品の授受或は賣買に就ては總て青錢で致します、青錢にあらざれば韓人は物の賣買は知らぬ有様でありまして、此點は誠に進歩して居りませぬ。

○韓人の家屋 それから釜山も日本人が隨分行つて居りまして、少しも朝鮮人の家屋などは見えない、素より釜山浦は日本人の居留民の多いので、朝鮮人の家は二三町行きませねば見えませぬ、然るに朝鮮の家と云ふものは御承知の通り殆ど御話にならない、所謂土で造つたのであります、さうして藁屋根になつて居ります、恰も豚小屋のやうな工合で、何處へ行つてもさうであります、窓も無し、唯入口があるだけで、主として彼方では土を以て家を造り、極めて棟低く、椽の下へズツと通るやうになつて居つて、是をオンドロと云ふので、如何なる家でもさうである、日本の人でも京城へ行つて居りまして、皆オンドロの家に入つて居ります、冬は温くて宜いと云つて居りますが、腦病持ちなどにはいけません、何處の家でも椽の下に火

氣があつて、さうして暖を取る、夏もやるさうてありますが、是等は兎に角衛生とか云ふ様な事は少しもありません。

それから概括して申し上げますれば、釜山と云ふ所は開港場でありまして、將來益々多望な所であつて、朝鮮としては最も繁華な地でありますし、必要の所でありますから、朝鮮へ行らつしやれば先づ以て釜山を御覽になつてさうして意思を御決定になつて徐ろに御調査なさるが宜かろうと思ひます。

業 ○ピコックとヒーロー

其他色々申し上げたい事がありますが、餘り長くなりま

すから、先へ行つて申し上げますが、韓人の嗜好は何であるかと云ふと、無論普通の食物は當然であります、殊に煙草であります、此煙草を喫むことは非常だ、如何なる所でも煙草を喫まぬ人と云ふものはないのであります、之に就て私は感じたことは村井兄弟商會のヒーローと云ふ煙草に非常に力を盡した其故今尚ほヒーローと云ふもの、箱を持たざる韓人は一人も無い、皆持つて居る、さう云ふ事が一旦染込

みますると、中々韓人の信任力は強いのでありますから、容易に變更しない、支那の方にも所謂ピコックと云ふ孔雀の附いた煙草、此ピコックに就ては支那人の信任が非常に強くて、折角專賣局で色々骨折つて三井物産一手專賣でやつて居るが此のピコックには叶はない、さうでせう、何處に行つてもピコックのない所はない、如何なる家屋、如何なる墻壁と雖もピコックの廣告の見えない所はない、矢張ヒーローも村井兄弟商會の名を以てやつて居る、是は日本人の名であります、其實英吉利人がして居る、そんなやうな次第でありますから能く嗜好に適してやらんければならぬ。

見 ○韓人の體格 今日莫大小屋さん其他其方に關係の御方が御入來てありますから、申上げて置きますが、今の他の煙草が嗜好に適せんで、ヒーローが成功した、それと同時に或は襦袢なり襦袢なり袴下、靴下其他の衣服に於ても日本人の體格よりは朝鮮の方が非常に大きいのであります、日本人は御承知の通り足袋などは十文

の人は十一文の足袋は穿けない、或は九文の人は十文ではいけない、ピタリ合ふのを買ひますが、莫大小とか襯衣とか云ふものに就ては、足袋の如くに合はないでも大きい人が小さい襯衣を着たり、小さい人が大きい襯衣を着ると云ふやうな風で何れも一定して居らぬ、之れは矢張足袋を穿くやうに莫大小とても其大小に依つて着るやうにしたものである。

○襯衣に對する注意 所が此點に少しも氣が附かないで矢張大小なして此日韓貿易若くは日清貿易をやると失敗だと思ふ、彼方は體格もあり、且つポケットを非常に大騒する、彼方は巾着を持つて居る癖がありますから、ポケットは是非附けてやる、如何なる衣服でもポケットは内側でなく、外側へ附けてやる、と云ふやうなことは必要だと思ふ、其他被る襯衣は困る、普通の襯衣は被りますけれども結髪の奴が居りますから、頭に被るのは不便です、矢張釦でやる方が宜いと思ひます、それで丈夫を專一として、引張ると直に釦が取れたり、綻びて切れたり云ふやうなこ

とでないやうにしなければならぬ、畢竟之等のことは大阪品の段々聲價を落した原因でありますから、最も評判の好い東京としては、製作品に就ては出來得る限り注意して、丈夫で良いのを送る、丈夫なる物であれば價格は左程廉いのを欲しない、朝鮮人は廉いのでなければ買はぬと云ふこともありますが、食の方は何うかしりませんが、着物の方は朝鮮人は錢をそう惜まぬのでありますからして、廉いに越したことはありませんが、廉くて悪いよりは高くして良い方が宜からうと思ふ、唯自分等が出來得る限り廉にして且つ亦た丈夫堅牢を一式とする方が宜いと思ふのでございます。

○韓人の性質 それから朝鮮人は極く柔順でありますモウ如何な所でも此節日本人が多く居留して居ります、て其居留して居る者は朝鮮人を雇入にして居らぬ者は殆どございませぬ、月に五圓もやれば、朝から晩まで働らいて居る、唯遊びに流れて居りますから、或は鞭撻しなければならぬ、或は日本人の權力で叩いたり何かして



居りますが、那れは宜くないと思ふ、詰らぬ言などと言ふよりも、使ひやうが宜しければ柔順に能く働くのであります或は移民會社で朝鮮人を墨其西哥なり何處なりへ移住せしめたならば必ず失敗するだらうなど云ふことを申しますが、使ふ上に道を得たならば、日本人よりは極めて柔順で、仕事も能くし、體格も確かりしてありますから、腕力にも堪へ得るのであります、要するに使ふ道を得ると得ないに實 ありますから、此等も能く注意すべき點であらうと思ひます。

○石の有る米 それから米であります、朝鮮米としては中々甘い、甘いが石が管 あつて困る、米を籾げる時に莖を敷いてやれば宜いが道路へ籾げて居ります、往來見の上だから石がある、私は米のことは能く調べて呉れと云ふこともありすから、能く調べて見ましたが、畢竟するに往來で米を籾げる時に置く、それが爲石が這入る、それが爲に石拔と云ふのがあつて、普通の米と石拔の別があつて、石拔は高いのである、高くとも日本に比較すると安い、且つ中々良い米がある、併し是も大に改

良の方に向つて居ります。

○多くは物々交換 如何なる部落、村落に到りましても商店がない、物を賣る店がない、それでは物品はどうして授受するかと云ふと、一六とか三八とか、五六とか云ふやうに日を定めて市が立つ、其村落の入口に市が立つて、物品の交換、授受、或は賣買するのであります、決して店がない、燐寸を買いたいと思ふても店がないのであります、市を待つてさうして買ひたい物を買ひ或は賣りたい物を賣つて居る、其土地の者は便利で宜いかは知らぬが、私等に對しては不便である、併し日本人の居留地は色々な物を賣りに來る、朝起れば豆腐屋が「腐豆——イ」と言つて來る所は日本と少しも違ひませぬ、朝鮮人の社會はさうはいかぬ、即ち日を期して市を開いて物品の授受、交換、賣買をなすに留まつて、店へ行つて買ふと云ふことは出來ないのであります。

○朝鮮の徵税法 紳商などいふ者が各地方にあるのでございませうが、是は

如何なる朝鮮の街道をズツト行つても、或は村落、部落へ行つても中々大盡は見えない皆同じ様な家ばかりである、偶々大邸など、云ふ所はチョット都市のやうな形をして居りまして、觀察使と郡司と云ふ者の家は立派であるが、其他の家は皆同じである、是が大盡であるか、金満家であるかと云ふ區別が出来ない、さう云ふやうな大きな家もない、それで徴税法は何うかと云ふと、所謂觀察使、若くは郡司の受負仕事になつて居ります、例へば朝鮮政府から此地方に於ては本年度は十萬圓なら十萬圓取れと云へば、それだけ納めれば宜い、觀察使が一道に一人、郡司が其下に澤山居ります、是等が請負で金を集める、だから門閥家が大臣を罷めて觀察使になる人もありますが、請負仕事になつて居る、政府から十萬圓取れと云へばそれだけ取れば宜い、十萬圓だけ納めてアトの五六萬圓は自分の儲けになる、月給も何もない、それを以て一の殆ど商賣として居る、商賣と云ふと言葉が可笑うございますが、生活でも何でもそれを以てやつて居る、或は官を買ふ事に就て非常に金を費すのであ

りますから、それを以て補つて行くと云ふ習慣であります、それ故此徴税法に就ては追々改正されて、稍其緒に着いて居りますから、昔日の如き事はありますまいが、兎に角請負仕事であります、其故種々の弊害がある。

○水害多し。殊に諸君に申上げて置きたいのは、朝鮮には河川に堤防がない、如何なる所にも河はございますが、堤防と云ふものがない、所謂人工を施したものが更でない、其故一朝雨期になるとか、或は臨時に雨が降つた時は直ちに氾濫して田畑に浸水する、其水害は非常である、更に堤防はない唯自然に任せつさりである、又溝渠など掘つてないから、少しく雨がなると、灌漑の便に乏しいから、旱魃の害が澤山ある、旱魃が六分て水害が四分といふ例だと言ひますが、要するに朝鮮の田畑は二百萬町歩、百九十何萬町歩あるのでありますが、其收穫は僅に百萬町歩に足らぬのであります、之を以て其の收穫の不完全なること、若くは總ての組織が不備、不完全なることが分るのであらうと思ひます。

○**韓國の宮殿** 概して朝鮮人は懶惰であります、京城へ入つた所が往來に寐て居る、ゴロ／＼軒の下などに寐て居りまして、其點から見てもどうも懶惰の弊がある、中には懶巧な奴もございませうが、概して申しますと遊惰である、て此京城には電車の設備があります、御承知の通り京城には中々非常な城門がありまして、吾々が汽車で南大門と云ふ所で降りて行くのであります、中々城門なども立派に、極く秩序正しいやうてありますが正しくない、又内務省といふやうな省もある、大臣もあるやうてございしますが、實際其所へ行つて見ると日本の區役所の大きいやうな構造である、景福宮と云ふ昔の王妃の殺された宮殿でございしますが、中々大きいものである、それが真中で大きな道路、其道路に入省がある、唯今統監府のあるのは其處にある、てありますから大層大きいやうてあつても實際行つて見ると規模が小さいのである、實際大きい聲では言はれませぬが、宮城なども今建築中てございませぬ、けれどもどうも立派でない、其癖景福宮などは王妃が井戸へ投げ込まれて殺さ

見 管 業 實 韓 清  
れたのは此處であると云ふことで、大院君が所謂國費を擧げてやつたといふ處であります、朝鮮人は一度不祥の事がありますと、直ぐに其所を去つて他の家を求めるといふ習慣だそつてあります、其他昌徳宮といふ宮殿があります、是は日本の濱離宮に大きな建物があるといふやうなものであります、是もいけないので今新に他に家を建てつゝあるのであります、是とても知れたもので、大したものではございませぬ。

○**統監府** 概してそんな様な工合で、さうして統監府です、統監府と云ふものは伊藤さんが統監になつて行かれ、中々是は日本の國體を維持せらるゝのでありますから、是は統監自身を立派にするのではない、日本の體面を維持するのでありますから、輕卒に往來も出來ぬ位の伊藤さんの御身躰は大切である、従つて統監府の人も皆伊藤さんの旗下の人が多くあつて、さうして能く統監府の職務を執て居らるゝ、さうして金モールの服制であつて中々立派である、海軍々人であるか、悪く云つて

も東京の掃除監督みたやうの服である、立派に云へば海軍服、能く見れば掃除監督と云ふものが此頃金モールであります、そんなやうな風である、兎に角伊藤さんの御方針は、何でも自分の意見を以て此韓國は統て行く、其故成べく他の人の意見は用ゐるにならぬと云ふ、恰も横綱の一人土俵入と云ふやうな譯で、其他の人は失禮ながら二段目位のもので、容易に忠言忠告をした所で、横綱に二段目が飛附くのだから難かしい、併し敢てさう云ふ風に伊藤さんのおやりになつたのではない、伊藤さんの名望と云ひ、知識と云ひ自然にさうなつたのであらうと思ふ、其他統監督府の人が言つて居りますが、秩序正しく制服などを變へて行くのは何であらうと云ふと、立派な日本の政治を韓國に施して、さうして良い方へ導くと云ふ爲に服制などをやつたのであらうと思ふ、然るに私は此點に就て悲しい哉規律嚴肅に行かれるや否やと云ふ事に就ては斷言は出来ませぬ、私は茲に多く言ひませぬ、言ひませぬが、惟ふに谷干城と云ふやうな人を一つ後見役にしたら宜からうと思ふ（拍手大喝

采)、餘り多くは申しませぬ宜しく諸君の御推察を願ひたいものであります、淫奔に流れると云ふのではないけれども、元來朝鮮と云ふ國は餘り此點に就ては規律が立つて居らぬ、其所へ持つて行つて統監督府たる所の人が、萬々一です、ありやアしませぬが、あつたら大變だと思ふ、規律を嚴格に立つたならば、適當の政治が行はれるし、又韓國の刷新も舉るだらうと思ふ此事に就ては後に意見を述べますが、遠慮の無い、見聞した事實に就て言ふ積りであります。

業 一それから日本の雜貨と云ふものが行つて居りますが、此雜貨は朝鮮人自身が使ふのかと云ふとさうでない、今朝鮮へ行つて居る雜貨の需要者は誰かと云ふと、朝鮮在留の日本人であります、所謂日本人本位であります、チヨット聞くと朝鮮に輸入があつた、と云ふと宜いやうであります、能く研究して見ると、朝鮮人が使へば宜しいがさうぢやない、朝鮮在留の日本人の使ふのであつて、さうして朝鮮へ税金を拂ふて居ると云ふ有様で、是れてはどうも仕方がない。

## ○雨降れば萬事休矣

それから統監府が商權擴張をして、尙ほ衛生上商事上の發達を圖るが爲めに、釜山には博覽會みたやうなものが出來まするし、又商品陳列館と云ふやうなものも設備になつて居るが、併し京城には其様なものは殆どない、此頃何か出來ると云ふこととてございしますが、是等に就いて充分力めて貰ひたいと思ふ。

又雨が降れば萬事休すす、裁判所へ何月幾日出ると云ふこととて喚出しがあつても、雨が降れば裁判官も休んで仕舞へば、原告も被告も休んで仕舞ふ(笑聲起る)雨さへ降れば萬事休す、と云ふので雨を防ぐ器具がない、朝鮮人の雨具と云ものは何であるかと云ふと、帽子を被つて居る、冠の様な帽子を被つて居る、其冠を掩ふべき桐油がある、それだけで其他にはない、吾々が買ひ立のパナマの帽子を雨が降ると大切にするやうなもので、大變朝鮮人は帽子を大切にする、其他に雨具と云ふものはないのであります、其故に雨が降れば萬事休す、是は支那も矢張同じである、北京に行つた時も、何か用を頼んでも雨が降つて來たら飛んで歸つて仕舞ふ、如何

に費用を増してやると云つても、日給を殖すと云つても雨が降れば萬事休す、是は實際の御話である。

## ○韓國の制度

要するに今日自分の見ました所では、朝鮮の購買力は何うであるかと云ふと残念ながら未だ薄弱であります、であるから今日は朝鮮は伊藤侯爵の御蔭を以て壹千萬圓の借款をして、さうして朝鮮の總ての改良を計り、農事の改良で實あるとか或は教育の普及、若くは水道の敷設と云ふこととてございします、が是等の事が行はれましたならば、段々良く成つて來ると思ふのみならず現在警察の制度が稍其緒に就かれて段々良く成つて來る、今までは賄賂を出さなければ、罪の無い者を罪すると云ふやうな弊害がございましたが、是等が段々改つて來た、と云ふので諸所へ各道へ警察官が派出せられて、其處へ就任した總ての事日本のやうな制度でやつて居るので、警察が稍其緒に就いたと云ふこととてあります、又財務、即ち徵稅法でございします、今迄は請負仕事であつたが、今度は財務官を経て其印の据つたもので

なければ徴税令状を發することが出来ない様に段々やつて居るそうでございますが、此警察、財務の方は段々改良の緒に就いて居ります、其他今申し上げた農事改良或は教育普及等も段々に改良が出来て行くだろうと思ひますが、教育の如きは、京城には小學校で一二あるのみで、先づ學校などは殆ど無いと云つても宜ひ位であります。

韓

○キ・サン

それから其代りキ・サンが澤山ある、キ・サンと云ふのは藝妓の事

業

であります、キ・サンと云つて藝妓は朝鮮には中々居る、此方は餘り視察を致しま

管

せぬけれども「ノ〜〜」と呼ぶ者あり、笑聲起る（此方は餘り嫌ひな方ですから

見

伊藤さんの悪口は云へませぬが兎に角キ・サンは澤山居ります、チョット長く成り

見

ますがキ・サンの御話もチョット致しませうが、盛にあるのです、日本の居留地に

見

は遊廓もあります、又京城の如きは所謂官妓と云つて、是は何品何品と云つて日本で

見

云へば位です、二品或は三品と云ふ事を云つて先づ三位とか四位とか云ふのでござ

いませう、兎に角位がある是も呼べば来る又行けば遇へるのだそうでございますが吾々には到底其等の味は少しも解せぬのでありますが随分日本の遊廓なども檢徴法を盛にして居る、であるから朝鮮に於ては醜業婦は見えぬです、割合に少ない。

清

○韓人購買力

是れチョット後で御話する爲に申し上げて置くのですが、要する

韓

に朝鮮に於ては農事改良とか或は京城の附近には石炭もあり金山もあるさうでござ

實

います、一向に振はない、それから鴨綠江附近には材木が澤山あるさうでござい

業

ますが、漸次統監府で總ての視察をすると同時に實力ある方々が朝鮮の經營をする

管

と云ふことは誠に當然であるうと思ひますが、併し財務、警察は稍々緒に就いて居

見

りますが、未だ其他に於ては緒に就いて居りませぬ、故に購買力が澤山あると云ふ

見

ことは斷言は出来ない。

見

○朝鮮に成功者なし 仁川の如きも大分此頃朝鮮熱が勃興して居りますが、京城

見

などには一ヶ月千人位入込み来る、朝鮮へ行つたら好い事があるだろうと云ふので、

丁度亞米利加へ行つたら物が落ちてゐるかの様に考へると同じやうに朝鮮へ行つたら何か好い事があるだろう、統監府が附いて居るからと云ふのでやつて來ますが、皆失敗して居る、朝鮮へ行つて成功した人は不幸にしてありませぬ、京城へ行つても面白くないから仁川へ行く、餘りの人が來るのだから仁川に貸長屋の出來たことと云ふものは非常でございます、一時は借りた人もありましたが、此節は三十軒も四十軒も貸家がある、實際にある、仁川へ行くと分る、先づ朝鮮の視察は此邊で了りましたのでございます。

### 三、滿洲の商業と日本の政策

○露人行懸の駄賃　それから今度は滿洲でございます、私は大連に參り、それから奉天と營口とに參つたのでりありますが、大連と云ふ所の設備と云ふものは、是は又朝鮮と違つて非常でございます、實に雄大なる設備である露西亞人の經營するこ

とは斯迄かと思ふ位に立派な經營である、然るに甚だ慘憺たる有様は、大きな二階建、三階建の家屋が未だに焼けた儘である、それは何であるかと云ふと、戦争の當時此大連を逃ける時に露西亞人が、之をムザ／＼日本人にやるのは惜しいと云ふので火を放つて行つたのである、煉瓦でありますから皆落ちませぬが天井は落ちて竈みたやうになつた、中には火を附けないで逃げた奴もありましたが、支那人が器具實などを奪る爲めに焼いたのが依然として居ります、是は民政署がありますから、民政署の方で段々修理をするのでありますが修理の費用は大變である、どうしても一家に就て一二萬は無論かゝる、なか／＼現状を維持するのも難かしい、實際設備が宏大でありますから中々大變である。

○日本婦人を食つた虎　露西亞人と云ふ奴は道路を前さに造り、公園を造り、それから家屋の設計に掛るのださうでございます、だから僅大連みたやうな所でも公園が二三ヶ所もある、其公園に今虎が居ます、日本婦人を食つたと云ふ虎が居りま

す、此虎が婦人を食つたと云ふ爲に、兵隊さんが虎を劔で突いたので、虎は蔭へ隠れて居ります。

○大連の建物と棧橋 それから劇場の設備、露西亞人の建つた芝居があります、今は開場はして居りませんが、中々立派なものである、それは實に歌舞伎座などの及ぶべきものではない、色々正面は彩色をした細工をして實に芝居は立派である、總ての設備が實に大連は雄大である、それから棧橋、此程代議士連が行つた折柄棧橋の上で何れが棧橋だと云つて怒鳴つたさうであります(笑聲起る)全く棧橋が分らない、日本のやうに小さなものではない、セメントで突出して幅が二十四五間、長さが五六百間もある壹萬噸の船でも横附に出来るると云ふ位の設備になつて居る、だから棧橋と云ふことはチヨイト分らぬのであります、吾々も棧橋は何處にあると云つて探した位でありますから、中々其設備は宏大なるものである、従つて倉庫、其他の事は到れり盡せりである、彼方では不完全だと云つて居るさうであります

すが、吾々の目から見ると實に雄大な設備である。

○建造物の維持法 それで今の所實は民政署でも此の先大連を何うして宜いかと

云ふ事に就ても成案がなからうと思ふのです、或はあるかも知れませぬが、吾々には言はれない、何か好い考はないかと云ふことを民政長官初め言ふ位であります、中々雄大であります、或は之を維持すること、若くは之を發揚して行くことは中々難かしいのであります、大連と云ふ所は不凍港でございます、而も如何なる時と業 雖も自由に船舶の出入が出来ます、其他營口と云ふ所も盛でありますけれども、所謂冬に成ると凍るさうでございますから、何うも大連を集散場としたいのであります、すが、是に就ては餘程問題であります、是等は民政署でも成案が何うかと云ふのは難かしいのであります。

○宿賃の馬鹿直歐米より高し 其他宿屋であります、滿洲へ行つては宿屋は實に

設備が宜しくない、且つ高いです、是は一番必要な事であり申上げますが、



歐羅巴を旅行しても斯うは費らぬと云ふ位である、私は村井吉兵衛氏と常に前後になつて歩いて居りましたが、村井氏は御夫婦で行つた、處が會て歐米などへ行つても斯んなに高く費用のかゝる所はないといふとてす、其等です大連邊りであります、先づ普通が五弗であります、五弗は日本の五圓五十錢にあたる、日本の百圓に對する九十二弗でありますから、チヨット約一割高くなつて居る、即ち五圓のものは五圓五十錢かゝる、それで晝辨當は別であります、上等になると七弗半も取る、之を日本金貨にすると九圓ばかりになる、是はビールも何にも飲まぬ時であります、然るにチヨット吾々はビールを飲むとか、日本食なら日本酒を飲むと云ふと、費用がかゝるからどうしても一日拾圓以上はかゝる、是れは實に馬鹿氣だことでありませす。

○醜業婦を買はねばならぬ 拾圓だけなら宜いが如何なる宿屋にも醜業婦が居る、是は義務としても買はねばならぬ(笑聲起る)是は買はないと非常に待遇が違ふ、

吾々は同行四人でございましたが成べく一人一人に部屋を分ける、別々にすると云ふ譯もないのですが、要するにそんな様な譯で中々費用が掛ります、是等も滿洲を旅行せらるゝに就ては非常に豫算が狂ひますので、馬鹿くしくて堪らぬ位であります。

○スモールベキン 其他奉天、奉天の如きは、スモールベキン、所謂小北京と云ふことを申しますが、總ての構造なども北京のやうであります、誠に商業は振つて居りませぬ、要するに滿州地方は吾々は考が違つた、と云ふのは購買力は盛であるだらうと思つたが違つた、違つたのは此方が考が悪かつた、元來農民労働者が多いのである、農民なら農民と云ふことを頭に措いて考へなければならぬ、何でも滿洲は盛であらう、購買力が盛であらうと云ふやうなことは別問題として、農民は購買力がないのでありますから、是等を發達させるには諸種の事業、或は此頃世間で囂々たる撫順の石炭の如き、是等も従つて多額の産出をするにはそれだけの設備を

要する、でありますから其設備が完全でありますれば、必ず目的は達するであります。要するに滿洲に對して速成の希望は望むべくして望むべからざるものであらうと思ふ。

清 ○商品の相場は亂調。 何でも滿洲は一獲萬金を得るとか或は右から左へ利益を得ると云ふことは難かしいのであります、大抵なものがさうであります、殊に朝鮮若くは滿洲に對して速成の希望と云ふものは全然失敗になると思ひます、況んや奉天大連は軍隊引揚後でございます、非常に商業が不景氣である、商品の投賣などもやつて居る、甚だしきは日本より安いのがある、併し是は過渡のことであつて、必ずしも之を標準とすることは出来ませぬが、實に紊亂：紊亂と云つては可笑しいが、秩序が亂れて居る、併し段々と納まりが附いて實際の相場になるのであります、今の所は一定しない、色々の雜貨で三倍も高いものあり、或は日本より安いものもある、と云ふやうな具合で混亂して居ります。

○東清鐵道聯絡の不備。 それから鐵道の聯絡が宜くない、大連から奉天へ行きますのは日に二回、朝は九時、夕方は六時でございます、其聯絡の悪いこと、殊にプラットホームの設備も充分でありませぬし、便所と云ふものがないのでありますから婦人などは車室から五六尺も飛下るのでありますから甚だ困難をする第一聯絡の設備が不充分である、斯言ふと前達はそんなことを云ふが此間内は荷車で運送したと云ふことを云ふものもありませうが、軍事の際とは違ひ實に不便であります。

業 ○滿洲旅行免狀。 殊に旅行免狀と云ふものが要る、大連から營口へ行く旅行免狀が要る、滿洲開放主義でありますから、吾々は民政署へ參つて旅行免狀を取りませぬでしたが、旅行免狀がないと停車場で切符を賣らぬ、非常な不便を與へるのであります、是は滿洲へ外國人が入るのを防ぐ爲に必要なのでございますが、日本人としては非常に不便であります。

○日本新美人來る。 其他奉天の旅館には皆醜業婦が居る先程醜業婦の話を致しま

したが、奉天の大きな城門を入つて行くと、鐘樓、即ち釣鐘堂みたやうな大きなものがある其中央へ貼札をして、『日本新美人來る至急御投宿を乞ふ』など云ふことが書いてある(笑聲起る)、そんなやうな工合で非常な亂暴で、外國人が見たら何と考へるでありませうか、私は一番宜い所へ泊りましたが、矢張醜業婦が居ると云ふやうな工合で、如何にも醜態を極めて居る。

○美人一人十六圓 是は醜業婦が悪いかと云ふと醜業婦は悪くない、醜業婦屋が悪い、醜業婦屋が一番成功して居る、さうでせう、吾々は元來女と云ふものは嫌てありますから、飯を食ふ時に酌などに見ますけれども、宜い顔をしな、處が先方で訴へるです、中に東京の者があつて、私は東京の神田であつて、齋藤孝治君の側であります、二百圓で此處へ來た、處が家から今阿父さん阿母さんの手紙が來たらば、十六圓しか親の手許へ入らぬあとは皆喘かされて仕舞つた、十六圓出して下されば御一緒に行くと云ふやうなことを言つて泣いて訴へる、勢ひ一擲の涙を催

さるを得ぬやうなことになる(笑聲起る)實際の話である、そんな事がある、實に慘憺を極めて居る、誠に是等の事に就ても民政署は色々の事に立入つて居りますから、第一に此の宿屋の如きは充分に警戒して改良を計るやうにしたら宜からうと思

います。

○驚く可き茶代 今宿屋の直段の事を申しましたが其他に又一段と驚くことがあ

るそれは何處の宿屋でも茶代を取ることを欲する、其事で謎を懸ける、昨晚片桐さんと云ふ方が御出てになつて五十圓頂だきましたと云ふやうなことを言ふ、實に驚ろく、私の友人が彼方で役人をして居りますから、是へ行つて、どうだ君、詰らぬことを聽くやうだが、茶代は何の位やつたものだらう、イヤ君止し給へ、詰らぬから餘計やるのは止し給へ、幾らやつたら宜からう、詰らぬから餘計やるのは止し給へ、やるなら二十圓か三十圓にしたまへ。(笑聲起る)是には驚いた、僅一日か二日で二三十圓も茶代をやると云ふやうなことで、此等は西園寺さん其他の方々

へ行らしつても、是等の事まではまだ御注意はあるまいと思ふ(笑聲起る)

○宿屋の取締 他の人が拂つて呉れれば宜しうございますが吾々の身銭を切つて行くのだから堪らぬです、是等は能く制限をして貰ひたい、茶代を取ることは成らぬ、或は宿錢は三圓以上を取ることは出来ないと言ふ位の干渉は出来やうと思ふ、是等を放任して置く時は、彼等は暴利を以て快しと爲し、随分旅行者の困難を感ずることがあるから、どうが願くば大に改良をして貰ひたい、實際の経験から切望をするのであります。

管 是から面白い旅順の御話に移るのでございますが、チョット休憩を致して申上げること致します(拍手喝采)

○旅順の景況 引續いて視察談を申し上げますが、何等の設備もございません、定めし御聽つらい事でございますが、私の赤誠を思召して、もう少し御辛抱あらんことを希望いたします。

只今奉天までの事を甚だ不秩序でありましたが申上げたのでございます、是より旅順を自分が實際視察を致しましたことに就て詳しく申上げやうと考へます、諸君も御承知の如く旅順は我が忠勇武烈の士をして犠牲たらしめ非常なる苦心をし、非常なる艱難をした場所でございます、て只今では大連から約三時間で参ります、奉天へ往きます線路の途中、丁度三十分程参りました所に南關嶺と云ふ處があります、實夫から分岐して旅順に参ります、それ故奉天又は昌圖へ旅順から往くは、矢張南關嶺へ出てそれから参るので、大連旅順間は約三時間で往かれます、て旅順も大連と管 同く大きな家屋、其他總ての設備が雄大であります、實に驚くべき雄大である、見 しかも其の大きいなる、此處は某の商店であるとか、何が住んで居つたとか云ふやうな商店には、随分彈丸が中りまして、或は火事を起し若くは非常なる破壊をし、其の慘憺たる状況今尙歷々として居ります、少しも注意もさせぬし、手をも着けんで其儘になつて居ります。

## ○破壊の跡

私共は旅順ホテルと云ふ處へ泊りましたが直き其破壊されたる家の隣でありまして、能く其等に就て親く見聞を致しました、其他此軍用品の陳列所がございます、是は紀念の爲に當局者が置いたのでありませう、此に参りますと矢張依然として其模型を置いてあるのであります、これが大に参考になります、或は拒馬と云ふ馬を禦ぐの方法、或は鐵條網、若くは狼筈、鐵條網は諸君の御承知の通り柱を樹て、さうして其れに針鐵をやつて、針鐵なんか直にいくだらうと思ふと、此針鐵が容易に取れませぬ、此處には從軍をした記者もお出になりませうし、私よりも一層進んで御調べになつて居りませうが、鐵條網と云ふは言ふが、實際なか／＼巧みに出來て居ります、是はマア聞いても居りましたが、狼筈と云ふのは驚いた此テンプルよりもめんつと大きい筈を掘りまして、筈だけならまだ宜しうございませうが、其筈の中央に竹槍が組んで植えてある、人が其處に落ちる、竹槍で腹でも何でもうまく突くやうになつて居る。

## ○卑劣の防備

是が露西亞で我が兵を防いだる防備具で、所謂狼筈と云ふのは是れであります、實に卑劣とも何とも言へない事をして居る、それから具釘板と云ふのは何であるかと云ふと、板に釘を立て、……釘と云つても日本の釘ではない、約五寸以上もある最も鋭い釘を打つて、それを往來に置いてある、或は向ふに往くと高粱と云つて大きな植物がありますが、其處へなどやつたりしてあればちつとも分らぬ、知らずして其れを踏む事がある、具釘板と云つて、實に野蠻極る防備具である、其他手擲の爆藥、或はダムダム彈……ダムダム彈と云ふのは萬國公法に於て禁止して居ると云ふやうな事を聞いて居りましたが、是亦腹内へ往つて非常に害をする見と云ふやうな、露西亞としては有ゆる學問上其他總ての點に於て出來る限の防禦をした、所謂防ぐと云ふと主でありますから戰は負けだのでありませうが、其點に於ては至れり盡せり、狼筈と云ひ具釘板と云ひ、ダムダム彈其他の戰爭器具を見ると、實に露西亞と云ふ國は兎に角戰備に就ては至れり盡せりの仕事をしたのであります。

## ○我海軍の閉塞船

黄金山老鐵山は依然として居ります、黄金山は御承知の通り旅順の入口の右側にある、老鐵山は左側にある、此灣口は誠に狭い、殆ど二三十間以内と思ひます、ごく狭い所である、其兩側に黄金山老鐵山と云ふものが聳えて居つて、なか／＼閉塞船など思も寄らぬと思つた所が、今尙依然としてある、しかも最も中央のは第三回の閉塞船であるさうであります、誠に此港口の狭い處に横はつて閉塞して居る、老鐵山と黄金山が寧ろ前に出て居る位になつて、なか／＼往かない處であるにも拘らず此處迄往つて閉塞して居る、其他閉塞船が今尙其儘になて居る、或は帆樫が出て居り、或は船の舷側が出て居ると云ふやうな事で依然として居ります。

## ○幌馬車砲臺廻り

此等の山は何れもなか／＼高い山であります、此へ登るには馬車で往きました、即ち歐羅巴馬車、所謂幌馬車でございます、此幌馬車で非常に高い山若くは其他の砲臺へ参りましたが、皆馬車で行かれます、日本人にはちよ

よと想像が出来ない、譬へば富士山の山腹をスツと往くやうに、自由に幌馬車で交通が出来程の設備になつて居る、高い山を馬車で往くと云ふと不思議に思ひますが、旅順ばかりはさうである。

## ○馬車で砲臺巡視

往來四間以上もありまして、さうして少し登つて往くと優に馬車が換へらるゝやうに出来て居つて、少しも苦痛なく絶頂に登るらるゝやうに設備になつて居る、實に想像以外である、成程戦の時に甲の處から乙の處にどうして兵を移すかと謂ふに、あの設備なら容易である、聞く所に依ればステツセル夫人は毎朝若くは毎夕各砲臺を見舞つゝ歩くのを以て日課として居つたと云ふことである、成程あつて死んだと云ふ、是は仔細に見ませぬが、其人の住んだ家はありました。其他向ふの大尉とか何とか云ふやうな人の居る家屋も見ましたが馬が二頭位居らる

程の家屋で、其設備と云ふものは想像が出来ぬ位完備して居ります。其他新市街の方にも市廳が出来て居り、なか／＼立派な家が出来て居ります。

○諸砲臺を見る 吾々は最も日本の軍隊が苦戦をしたと云ふ、松樹山二龍山若くは東鷄冠山、或は望臺、それから有名なる二〇三高地、此等を往つて見ました、然るに東鷄冠山二龍山松樹山望臺等の場所、或は二〇三高地の如きは、悉く陸軍の方に於ても掃除をなして、大に綺麗になつて居る筈でございます、然るに殊に二〇三高地の如きは、吾々が此山に登りますや、砲臺は非常に破壊されて居り——黄金山老鐵山は砲臺は破壊されて居りませぬ、實に立派である、此の如き堅牢不拔なるものは容易な事では破壊されぬと思つて居りましたが、今謂ふ松樹山二龍山東鷄冠山の如きは悉く破壊たれて、實に堅牢不拔と思つた其砲臺は二三丁も飛されて居り、其他總て慘怛なる現況を呈して居ります。

○今尙死屍累々 陸軍が總ての掃除其他の事を整理せられたにも拘らず、二〇三

高地の如きに行きますと、今尙死屍累々として、或は血痕の附着したる所の洋服、或は帽子、靴下、此等の物が出て来て居る、何故であるかと申しますと、元來山の土が一向ない、所謂砂利若くは岩石と云ふやうなもので、山をなして居りますから、風が烈しい所に多數の人を埋めたのでありますから皆掘出されて居る、風の爲に、如何に整理をし掃除をしても掃除しきれぬのである、故に吾々が往きましても其死屍累々として、しかも血痕附着したる所の總ての物がある、或は甚しきに至つては、仰向に死んで居る肋骨が見えて居つて自餘は見えて居らぬ、僅にビールの壘に花を挿して之を弔ふて居ると云ふやうな状況もある、其他随分幽靈山と呼ばれた山などに往きますと、千人も或は其以上も全滅をしたと云ふやうな事があつて、それは砲臺が前に築つてあるのを内に築つてあつたとか云ふことであります、是は現況の見るべきものが無いが詳しく申上げられませぬが。

○感慨胸に迫る 其總ての有様を見ますと、到底人力で此旅順が取れると云ふこ

清 → 韓 → 實 → 業 → 管 → 見

とは思ひも寄らぬのである、何故かなれば、旅順は所謂天險の要害地であります、其處へ持つて来て今謂ふ彼等の防備の巧なること、殊に況や砲臺でありますから、設備に設備を加へたのである、それを何うしてやつたか、随分山に往くには眞直に往くと皆敵から撃たれますから、横に道を作つてさうして登つて往つた、漸く半にして、若くは項上に達すると、それを狙つて又撃たれて、幾度も全滅をしたこともあ  
 實る、それ等の現況が目前にあり、況や死屍累々として、或はシャツの非常に血か附  
 業いて居るもの、或は靴、靴下の如きも血の凝塊と一緒になつて居ると云ふ所を見、  
 實に斯くまで忠勇武烈の士が國家の爲に力を盡したとか思ひますと唯感慨胸に迫る  
 のみであります。(拍手起る)

→ 見

○世間にしれぬ第三回の閉塞船 此状態、或は今の閉塞船の——廣瀬中佐は第二回の時に死んだのださうてありますが、是まで世間に知れぬ第三回の閉塞船が大に効を爲したのださうてござります、此等の物の如き、今尙依然として存じて居り、

清 → 韓 → 實 → 業 → 管 → 見

又かの二〇三高地、或は松樹山二龍山東鷄冠山等に於て苦戦したる所の状況、それ等のものを實際に見ますれば、戦後の經營を爲すべき吾々の責任實に重且大なりと思ふのであります。(拍手喝采)

○中學生に觀察せしむる方案 ところで私は此頃は文部大臣も交送せられまして、  
 韓 新に歐羅巴から歸つて來た人が大臣にもなつたさうてございまして、所謂精神的  
 實 修養をしなければならぬと云ふ訓令を發せられたとか云ふやうな事でありまして、  
 業 此旅順の現況は到底私の如き訥辯輩の言ふべからざる事でありまして、故に中學以上  
 管 の生徒をして、充分に此實況を視察せしめましたらば、精神的の修養としては實に  
 見 唯一の仕事であらうと思ふ、(拍手起る)随分此頃の學生の風紀が紊れて居るとか、  
 或は種々なる醜聞があるとか云ふことを聞くが、畢竟するに精神的修養が少ないの  
 である、是に於てか中學以上の生徒をして、此等の者が如何に國家の爲めに盡した  
 か、又相手方の露西亞といふ國が、如何に雄大であるかと云ふことを研究せしむる



こと、若くは見聞せしめますことは、將來日本帝國の爲に最必要なりと私は確信するのであります。(拍手喝采)

清 → ○中學生視察を當局に詢る。それで私は歸りまして以來東京府、或は近い處にすれば長崎なり熊本なり、あの邊にも中學がありますから、進んで連れて往くが宜しいと思ふ、さうすると自然に實際の事を見ることが出来る、これが半年若くは一年たつと、悲いかな其現況も遂に埋没するだらうと思ふ、今が最も好時機であります。實 況や日本の人は航海の思想に乏い、ちよつと房州に往くにも船で往くと云ふと臆劫管 に思ひますが、最早滿洲なり朝鮮なり我が勢力範圍となりました以上は、大に此航海の思想を發達して、さうして外に向いての仕事をしなければならぬと思ひますから、此際旅順若くは大連の實況を見せ、併せて航海の思想を發達せしむると云ふことは、此時機此場合に於て逸すべからざることと思ふ。

○學生視察案賛成せらる。で知事に話した所が、知事も非常に賛成して、岡と云

ふ二部長が學務の方に従事して居りまして、此人にも話した所が、是亦非常に同意であります、其費用はどの位かゝると云ふことでありますから、マア官設鐵道は勿論山陽鐵道の如き、此等は無論半額——私は無代が宜いと思ふ、無償でやるが宜いと思ふけれども是も經濟上いけぬと云ふならば半額、それから宇品から御用船が出て居る、若くは大連からも毎日出て居る、此れが荷物が無い、人間も乗らぬ、それでも毎日出て居りますから船は無償で宜からうと思ふ、これは陸軍に掛合ふ。

○往復僅に十七圓。それ等を昨晚(六月十五日の夜)遅くまでかゝりまして、東京府の方から費用がどの位掛かるか、學校長を集めて話すのに必要だからと云ふので調べて見ましたが、十七圓あれば優に學生一人が往復が出来る、僅か十七圓位のことならば容易の事と私は思ふ、て此等の人をしてどうか旅順其他大連等の設備の大なる所を見せ、又旅順の慘憺たる所を見せると云ふことは、甚だ失禮な事でありませうが、文部大臣閣下の百千の御訓令よりも私は精神的修養としては効能があると思

ずる兎角訓令とか何とか云ふものは澤山出ますが、實際の仕事がない、本統の仕事は何かと云ふと、目前に斯う云ふ事があればどん／＼遣るが宜からうと思ふ、どうか此目的の達することを、私も努めますが、幸に満場の諸君も御賛成であれば、他まで御力を盡されんことを希望致します。(拍手喝采) (記者曰く杉原氏の此案は其後間もなく實行せられたり)

○旅順の商人退散と人頭税　それから旅順に在留して居る商人が、皆此頃は退散して居るどん／＼居なくなつて仕舞ふ、これは何であるかと云ふと、殊に居なくなるのは支那人である、露西亞が旅順を設計して居つた時分には、露西亞人ばかりでも殆ど三千人以上居つた、これがなか／＼購買力がある、物も能く買ふ、政府の方でも金を出すと見えて非常に物が賣れる、需要が澤山であつた、然るに今日日本人は軍政と民政と兩方でありませぬ、なか／＼八ヶ間しい、殊に支那人の入ることを防いで居りまして、多く支那人が旅順へ物を持って参りますのは、芝罘或は威海衛から持つて来て居ります之に向つて人頭税を取つて居る、出入毎に一圓つゝ日本の民政

署が取つて居る。

○牛肉一斤五十錢玉葱二個五錢　其爲に旅順に於ける供給品であります、ちよつと私が玉葱を買はう或は牛肉を買はうと思ふと、戦争中に於ける旅順で買いますよりも高い、戦争前に於ては旅順では牛肉が一斤二十錢を超へてはいかぬと云ふ法律を露西亞の方で拵えまして、玉葱の如きも一斤……又斤數も違ふ、一斤は百四十匁を押えて居つた、然るに今日はどう云ふ變化か百匁を以て一斤、牛肉は一斤五十錢、玉葱の如きも目方でやつたやつが、二個五錢であるとか、三個五錢であるとか、箇數で賣つてるとか云ふやうに段々高くなつた。

○軍政と民政とて八ヶ間敷い　是は何かと云ふと持つて来る供給者に人頭税を課したり種々な事をするから、随つて總ての物品は高くなる、高くなつてもそれだけの購買力があり、或は利益があれば居りますが、軍政と民政とて八ヶ間しい上に、段々人が減つて来る、軍隊が引揚げて僅に駐屯兵だけ残ると云ふことになり、其他

商業地でない旅順は非常にやかましい、ヤレ此處へ往つちやアいけぬ、彼處へ行ちやアいけぬと、軍政の方の關係があると見えて八ヶ間しい、商賣がない、それ故に支那人が去つてしまふ、日本人も今日は所謂退散の準備をして居る、居られぬ、實際の有様であります、生活の度は高くなる、反對に物が賣れぬと云ふのであります、是は居られないのは當然である、故にどうか民政にしても軍政にしても、命令は一途に出る方針を執り、人の居り易さやうにする御方針でないと、趨勢仕方がないと業思ふ。

○**旅順にて醜業婦の跋扈** 實際の状況がさうであります、唯居るのは、毎度言ふやうであるが、誠に神聖汚すべからざる旅順と思ふ處に醜業婦が跋扈して、又醜業婦屋が盛んである、此程西園寺侯の住かれた時に御一緒に行かれた方などは、随分此處で騒いだと云ふことであります、なか／＼に盛であつたと私はおそろしく思つて居つた、其通り醜業婦は非常に跋扈して居る、其様な次第でございますから、旅順

の前途は如何にするかと云ふことは、殆ど問題であらうと思ひます、尙此邊に就ては諸君の御考慮を要する。

○**營口の視察** それから今度營口の事を申しますが、是は旅行の順序を申しますと、先づ旅順へ行つて、それから奉天へ参りまして營口へ往つたのでございますが、此鐵道の聯絡が甚だ悪うございまして、奉天から營口へ参るのには奉天を午後三時何分といふ稍四時發の瀛車と、それから次は夜の十一時に奉天を出る、此二回より外に奉天を出發する瀛車はない、其夜の十一時の瀛車に乗りますれば翌午前に營口へ這入れる、所が奉天へお出の方に能く申上げて置きたいのは、奉天といふ處は停車場から城内までは約一里半あります、城門までは一里位でありますが、吾々の泊る旅店のある處まではそれから半里程もありますから、約一里半ある、て其の交通機關は何であるかと云ふと、道路が非常に悪い、天氣であれば凸凹した路であるし、雨が降れば實にどぶどろ深くなる。

○支那馬車と桑港の地震 此の交通機關は何であるかと云ふと、所謂支那馬車と云ふのは申上げる迄もなく御承知でありませうが大八車、バネも何もない大八車で、御所車のやうな風のものもあります、其れに圓い覆蓋がかぶさつて居る、其内に乗る、馭者か其の外に腰を掛けてやつて往きますが、それは頭が幾つあつても足らぬと云ふやうに、向ふへ打付け此方へ打付けそれは堪らぬ、とても桑港の地震と云つても及ばぬ位に動揺する、それに乗つて一里半も參る、丁度西園寺首相が來た時に、人力車が五臺來て、大變な失態があつたのとて吾々も乗りましたが、元來道路の悪い處に持つて來て、人力車の幅が狭い、忽ち引繰返る、やはり土地に相應しい物が出來て居る、又此支那馬車が、吾々は大地震に乗つたやうだが、うまく中心を取ると行ける、安全である、路が悪くも平氣でバシヤ／＼往く、是が支那の交關機關となつて居る。

○輕便鐵道 其他日本人のやつて居る輕便鐵道がありますが、是は御話にならない

い、實にひどいもので、一人も人が乗つて居りまもぬ、日本では其權利を得たと云つて威張つて居るが實際乗らぬ、やはり支那馬車に乗つて居る、所がさう云ふ交通機關で、宿屋から往かうと云つても一時間位掛かるから、急に停車場へ飛んで往くと云ふやうな譯にいかぬ、と云ふのは妙な事にたつて居る、總て城門のある處は門を閉る、奉天などに往つて、宿屋から城外に出て夜の十時に歸ると門が開かない、何と云つても入れない、城廓と云ふものは五丈もある立派な城廓であります、それに大きな門があつて、十時になると閉る、馬車の如きは六時に閉てましふ、だから城外に出ると交通が遮斷される。

○待合室が無い 奉天を夜の十一時に出る營口へ晝間往かうと云ふ流車に乗るには、五時頃から停車場へ來て待て居なければならぬ何故なれば馬車がない支那馬車が無いのである、十一時の流車に乗るには宿屋を午後の五時に出て停車場に來て待合室があれば宜いが無い、軍隊の將校待合室はありますけれども普通の人民とし

ては待合室がない、立つて居なければ成らない、晝間の四時なり五時なりに往けば立つて居なければならぬ、飲食店はあるが、休所があるかと云ふと是も無い、絶對に無い。

○眞夜中の旅行 　だから十一時に奉天發の瀛車があつても乗れない故に三時卅分

の瀛車に乗る、すると大石橋と云ふ處に夜の十二時に着く、此大石橋が又營口へ往

く道と大連に往く道の分岐點になつて居る、て丁度吾々は品川に来て山の手線へ乗

換るやうな工合で夜の十二時に降りて乗換へて營口に行く、營口に行くと言ふても

營口には停車場がない、其手前の牛家屯と云ふ處にある、營口まで約一里半から二

里ある、それ故に夜半の十二時に大石橋に着いて、さうして營口へは殆ど一時間掛

かりますから、一時に着く、一時に着くのは宜いが、其一時に着いて是から構内を

出やうとすると、旅行免狀から其他品物などに就いて、軍政署に於て餘程注意する、

なか／＼急に出られないのです、三四十分はさつと時間を費す、私のみならず皆彼

處へ行く商賣人は、其の爲に非常に時間を費す。

○トロッコで痔を起す

それから營口に往く……尤も牛家屯にも汚い宿屋はあ

るけれども、トロッコの設がありますから其れに乗つて營口まで一里半ばかり行く

のであります、丁度私達の營口に着いたのは夜中の三時であります、一時過から三

時までの間トロッコに乗つて往つたから、中には痔を起した者もあり、非常な困難

を感じた。

○商業は眼中になし

それで兎も角も鐵道の聯絡の設備と云ひ、其他總ての事柄

が、商業とか何とか云ふことは一向眼中に置いてない、總て軍人本位になつて居る、

それ故に今日商權を擴張する、或は實業の發展を期すると云ふ上に就ては、當局者

が是迄國家に盡されたことは有難いのであります、が戰後としては其邊に就ての御注

意が誠に必要であらうと思ふ。

○營口支那商人の恐慌 　營口に参りました所が營口には支那人の大きな商店があ

ります所が支那人か今實は恐慌中であり、ズット上流の商人はそんな風でありませぬが中流少し以上の支那人は恐慌中です、それは何であるかと云ふと、是も輸送力の關係と、一つ支那人も歐羅巴制度で總て信用で行く、詰り需用供給の程度が過ぎたのでありますが、信用の利く爲に随分物も買込んだり何かした、然るに今言ふ鐵道の輸送力が不完全の爲に、奉天以北、即ち鐵嶺昌圖と云ふやうな肝腎な處に品物が往かない、住くにしても遅々たることになる、是が段々に重なつて来て、所謂商品の堆積、貨物の澁滯と云ふことになる、況や戦も濟んでしまつたものですから何分にも捌か好くないと云ふのが一の原因、其他にも原因はありませう、所謂信用をあまり濫用したこともありませうし、今支那人が恐慌を呈して居るそれが一の原因になつと居る。

○支那人の信用と共同救済 然るに一人の支那人が六十萬圓の不渡りをして非常な失態はしたが、其失態を各他の支那人が救済の策を講じて居ります、支那人の實

に此信用を維持し、信用を大切にすることはえらいもの、其他の支那人が、皆此會館と云ふものがありますが、其處に集まつて救済法を講じて居る、是は一支那人の爲ではない、萬々一日本の正金銀行物産會社に一對して不信用をする、或は上海其他に向つて信用を害すると云ふと、營口の商人一人が悪い事をして、營口の商人と云ふものは此の如く不信用のものと言はれる、さうすると今度營口の商人の信用と云ふものは絶無になるのだから、あの人を助けるのではない、己自身を助けるのだと謂つて共同團結して救済法を講じつゝある、故に失態が外に現れない。

○残念ながら豚尾漢に及ばぬ 内幕を調べて見ると確に失態をして、正金銀行も警戒はして居るけれども、半分は金が集まつて、もう半分集めて何うか六十萬圓にして救ひたいと謂つて研究中である、其熱心なること實に驚くべきもの、實際の話です、是は今やりのある、無論其失態は表に現はさうして濟むことであらうと思ふ、是は營口にある人も既にさう見て居ります、さう云ふやうな事は、吾々はあんな豚

尾漢がと思つて居つたが、其共同團結の力の強いこと、それから信用を重んずると云ふことは、残念ながら日本人よりは向ふの方が上であると云つても差支ないと思ひます。

○日本人は駄目だ

それ故に正金銀行へ往きまして種々支配人等に聞きますと、

日本人を罵倒すること非常です、日本人悲觀説です、日本人は駄目だ、何故なれば營口と云ふ處は商業地であるけれども、日本人は皆互に相排擠して、日本へ仕入に往くのであつても、どうも彼處の家の主人が居なくなつた、日本へ往きはしないか、それぢやア已も行かう、ぢやア已も負けずに仕入に往かうと云ふので、箇々別々に仕入に往く。

○支那人の仕入法

支那人はさうでない、日本へ仕入に往くには、三十人位團結

をして總代に現金を持たせて大阪に出すから、如何に支那人と雖も利益ほど大切なものはないから、大阪でも何でも安く賣る、或は良い品物を餘計に賣る、日本人の

習慣としては箇々別々に買ひに来るのみならず、金を拂ふに於ても前の品物の代價を拂つて、それから又品を借りて往くと云ふやうな習慣もある、或は手形を半分置いて、あとは此後に仕入に来る時と云ふやうな習慣、箇々別々だから随つて買ふ物も少ない、支那人の方は共同して總代を出して物を買ふから大きな物を買ひ、又現金でやるから價が廉くなる。

○日本商權支那人の手に掌握

日本人のは箇々別々で、現金拂が残念なから出來

ぬと云ふやうな習慣のやうに思つて居ります、それ故にどうしても營口で物を買つても、日本人から買ふよりは支那人から買ふ方が廉い、斯ふ言つて居ります、現に營口あたりの人が——誠には残念な事と思ふのであります、マア一から十までさうではありませぬが、概して申しますればそんな次第で、いつも此日本の商權が支那人の手に掌握せられて居る、それ故に正金銀行などは日本人を見ると悲觀です、日本人くらゐ仕様の無い者は無いと云つて、自分が日本人で居ながら悲觀して居る、

是は極端で、正金銀行のやり方も甚だ面白くない。

○日本紙幣の通不通と軍票の相場　それから最も茲に困難したことは、日本の紙幣が通用したのは朝鮮だけであります、大連へ参りますと日本紙幣は不通用であります、現今は日本の軍票があまりまして、此軍票は非常に通用して居る、是は何かと云ふと、政府も頻に軍票の回収をして居る、故に鐵道の切符を買ひに往くとして、軍票でなければ賣らぬ、どんな事を言つても賣らぬ、故に止を得ず正金銀行の出張店に行くと、三圓打歩になつて、百圓持つて往つて百圓取れぬ、三圓付けなければ百圓の軍票が取れないのであります、三圓損をする、是れて私共が奉天までは、往つた、營口へ往つて軍票はえらい物であると思つた所が營口は通じない、營口は牛莊紙幣にあらざれば通用しませぬ、已を得ず牛莊紙幣を買ひに往くと、日歩相場で百圓のものを私は九十三弗で買つた、平均九十二弗、日本の百圓の紙幣が、九十三弗しか買へない、七分損するのであります、軍票は、いりかかないから之を賣らう

と云ふと、百三圓で買つたやつが九十三圓でなければ取れない、丁度十圓ばかり損をしたのであります、この貨幣制などについては、まだ意見がありますから後に申上げますが、概してさう云ふやうなものであります、これも能く御承知を願ひた

○支那人の注意周密　それから支那人が營口では盛に豆粕の製造をして居る、此等も往つて見ました所が、なか／＼立派な設備である、汽罐と云ひ總ての設備が立派であります、それから驚いたのは支那人の中流以上の者の豪いに驚いた、客が往きます、其の接待の宜しいこと、それから貴所は支那語などはやりませぬが、英語なら宜しうございませうと云つて、此方が英語が充分に往かんから困つたが、英語を操ることが巧い、アクセントと云ひ何と云ひ、如何なる番頭でも英語を解せぬ者はない、さう云ふやうな工合で、實によく注意して居ります。

○營口と大連　其他營口と云ふ處は今謂ふ遼河の便があまりまして、河であります



けれども一萬噸以上の船が出入して居ります、唯不幸にして此營口は冬になると凍る、大連は不凍港でありますから、營口の集散を大連に吸収すると云ふ議論があつて、是は餘程前から議論がありますが、是は諸君の御考に委せやうと思ふ。

○寫眞を賣らせぬ 其他此旅順に於ける事だとか、或は奉天に於ける支那馬車とか、旅順の最も慘憺たる状況などは、どう云ふものか陸軍省が干渉して其寫眞を賣らせませぬが、私はやう／＼手にして別席に持つて来てあります、其他尙寫眞屋に頼んで、一通り後とから届けて来る筈になつて居りますが、兎に角旅順のだけは別席に備へて置きました、それに營口の分もありますから、御歸りがけにでも御覽を願ひます。

○所謂關の内外 兎に角營口はなか／＼盛んな處で、随つて大連よりは今は商業は盛んであります、總ての物産の集散、或は購買力の點なども、流石は營口でありまして、遼河を利用し、或は鐵道の便を假り、兩途に出て奉天以北までもズツとや

つて居りますから、營口の集散をして大連に歸せしむると云ふことは、なか／＼大變な問題であらうと思ふ、是は後の問題にしまして、營口を出て、遼河を渡りますと向ふに北京へ行く鐵道があります、是は關外鐵道及關内鐵道と申しまして、萬里の長城から内を關内と云ひ外を關外と云ひ、其鐵道の經濟が違つて居る。

#### 四、北清貿易の現状

○顔を見て信用する 此關外鐵道に往くと、此鐵道の設備は歐羅巴風です、廣軌鐵道で非常に設備が立派である唯支那兵が各停車場に居つて發着毎に列車に敬禮する是は一の奇觀であります、それから手荷物等を預けるに就ても歐羅巴風です、チッキなど渡さない、唯預かる、どうも證據がなくて困ると云ふと、それは妙だ、日本で眞似が出来るかどうかわりませぬが、私は顔を見て信用するのだから、チッキなどは渡さぬ、間違つたことはないと云つて、如何なる大切な荷物でもチッキを寄越さ

ぬです、又間違つたこともないさうであります。

○露國の遺物　それから日本の如く改札場など、云ふものはない、汽車の中では見ますけれども、改札場がない、小荷物を預けてもチツキはない、信用でやつて住く。數が多くなつてはどうかと思ひますが、是も過ちがないとしてある、それでチツキなど渡して居ない、非常に便利です、それからポーイが皆支那人であります、皆英語です、英語を知つて居れば差支ない、元は露西亞語であつた、故に鐵道の此處は何であるかと云ふやうなことは露西亞語で書いてある、是は露西亞の遺物であります、又切符を賣るには昔は露西亞語にあらざれば賣らぬと云ふので、露西亞の遺物が依然として居る、以て露西亞の勢力が盛んであつたと云ふことが想像が出来る。

○六七十の老兵　それから兵隊が始終發着毎に附いて居る、是には老人もある、六七十の老人がありますが、どう云ふ譯でさうかと云ふと、是は傭兵である、向ふ

の制度は日本と違つて、徴兵の制度でありませぬ、傭兵である、それ故に老人が混つて居る、此價はどうかと云ふと、四兩半ださうです、それで食事は自分持と云ふのだから、さう宜い人もないが、随分老人が居ります、それは頻々と見ます。

○營口時間と日本時間　丁度此營口に來まして時間が一時間違ひます、營口では日本時間で一時間違ふ、營口發の汽車が八時と云ふのでありますが、私の時計を見たから九時である、それは自然の結果で、船に乗つても何でも段々十五分づゝ違つて來て、丁度此處に來て一時間違ふ、それですから營口で若し會を開きますと、案内狀に二つ書く、營口時間何、日本時間何、譬ば今日の御集會を願ふに、午後正二時に御集まりを願ひたいと云ふを、營口時間なら三時、一時間遅れて居ります、此事を考へないと大變な間違をする、丁度一時間であります。

○牛莊紙幣の不通用　牛莊紙幣の不通用で困難を致したのは、關外鐵道が日本の八時、向ふの時で九時に出て、夕方の五時頃に山海關に着く、所が是は夜になる

と、馬賊の襲來等があると云ふので、夜は出ませぬ、それで止を得ず此處に泊るの  
 であります、所がそれは所謂萬里の長城の第一關門と云ふので、其寫眞も持つて來  
 ましたが、天下の美觀である、其處の宿屋が實に不完全であります、此れと云ふ程  
 の宿屋がないけれども、泊らなければならぬ、それで困つた事には關内鐵道——關  
 外鐵道で山海關まで牛莊紙幣と云ふものが通用して來ましたが、翌日又北京へ八時  
 に出る、此の切符を買はうとして牛莊紙幣を持つて往つた所が、此處は牛莊紙幣は  
 業 通らぬ、天津紙幣にあらざればいけない。  
 管 ○どつこいいかぬ 吾々は牛莊紙幣しか持つて來ない、天津紙幣がないのだから、  
 見 どうか少し位の打歩を取つても宜いから賣つて呉れると云ふが、どうも其様な事は  
 出來ないと云つて賣らない、尤も是は西洋人でありますし、會社も違ふし制度が違  
 ふから、此方の言ふのが無理だ、向ふては天津紙幣でなければならぬと云ふことに  
 なつて居る、此方は知らぬから牛莊紙幣さへ有れば宜いと思ふと、どつこい關内鐵

道の切符を買はうとするといかぬ、こんな事を言つても賣らぬ、そこで私は殆ど立  
 往生した、四人連がありまして、爲換をしやうとしても銀行の設備がないで殆ど弱  
 つた。  
 ○見ず知らずの人に六十弗 幸なるかな天津の皆川廣量と云ふ親切な人が隣座敷  
 清 に居つて、誠に御氣の毒だ、實に日本から來ると斯う云ふ事を知らんから困る、私  
 實 は天津から來たので知つて居るから金を持つて居る、それでは貴所方の汽車賃は六  
 業 十弗あれば宜いだらうから貸して上げますと云ふので、見ず識らすの人の六十弗借  
 管 りてやうやく翌日天津まで參つた、是は大に此旅行上に必要なる點でございます、  
 見 貨幣制度の一定せざる其不便、實に人間だけでない、貨物もさうである、是は容易  
 ならずること、私は思ふ、正金銀行如何にして能く此事に力を盡さぬかと云ふこと  
 に就いては、大に怨みを呈しなければ成らない、是も後に意見があるから申上げま  
 すが、要するにさう云ふ不都合がある。

○到れり盡せる關内鐵道

又關内鐵道と云ふものは、關外鐵道よりも一層立派な設備がしてある、それは非常なもの、まるで船に乗つたやうで、銘々の部屋があつて、それにスモークルーム、或は談話室、或は此方には食堂の設けがあると云うやうに、此設備など、云ふものは、到底日本で想像が出来ない、至れり盡せり、歐羅巴のを其儘持つて来て、關内外の區別を一層的確にした、關外は元と胡とか何とか謂つた處で、關内は中華と謂つたやうな譯でもありませんが、殊更に設備が立派である、驚くべき程立派、ボーイと云ひ何と云ひ、其他總の取扱が實に親切で、えらいものである。

見 ○屢氣樓 是は勿論彼地を御旅行にならぬと御承知ございませぬが、能く我國の繪にもある蛤が龍宮を現出する屢氣樓、空氣の作用に依て屢氣樓と云ふものが出る向ふの山の下に海見たやうに水蒸氣が發して居る、軍事上などには非常に困難をしたり、不便なことが有るさうであります、屢氣樓と云ふものがあつて、向ふの

山がまるで海から出て居るやうに見えることかある、何も無いのでせうけれども、さう云ふ風に見える、軍事上非常な妨げをしたと云ふことを聞きました。

○首枷の罪人 それで段々に此流軍が天津附近に往つた、驚いたのは、首枷の罪

人が澤山居る、大きな四角な板をやつて首枷の罪人が、而も停車場附近の、人の大勢居る處に居る、是は日本では餘り見られないものであります。

○天津の事情 そんな事をして漸く天津に着致しました、是から少し面白いのですが、マア端折つて申し上げます、天津の商業の盛んなること、購買力のあること、日本居留地の一致協力して居ること、各國居留地の優劣の見えることと云ふものは、天津に往と英租界と云ふのが英吉利の居留地、佛租界と云ふのが佛蘭西の居留地、獨租界と云ふのが獨逸の居留地、日本租界は實に好い處を取つた、元はひどい處を取つてあつたさうですが、團匪事件以來天津の中央と云ふやうな處を取つた、で各國互に居留地を盛んならしむることに競争して居る、誠に其處へ往くと、何處が佛蘭

西、何處が英吉利、何處が一番好いだらうかと云ふことは、直ぐに分るやうに競争して居る。

○天津の日本居留地 日本人に於きましても、非常に發達して居る、段々家も出來て居りますが、少しも日本家屋らしいのは無い、皆歐羅巴式の家、天津に限つては悉く歐羅巴式の家で、日本家屋など云ふものは見ることも出來ぬ、それで滿洲邊りから始めて此處に参りますと、殊に著しく感ずる、殊に居留地の人は親切で、遠來の人を歓迎する風がある、朝鮮邊へ往くと、日本人が往くのを好まない、彼奴が來て又斯う云ふ商賣をしないか、本統の事を言ふまいと云ふやうな風があります、天津に於ては、どう云ふものか、互に勵みが附いて非常にやつて居る、且つ天津居留の人は、此處に土着して居ると云ふやうな考がある、どうも日本と云ふ國は、餘り好い國であるから、年に一度遊びに行けば宜いと言つて、一向歸る氣色も無い、根據を其處に定めて、おまけに妻君携帯でありますから、家庭も圓

滿で、誠に好摸範の居留地であります。

○天津の購買力、物資の無盡藏 それで此天津の實に購買力のあること、それから、物資の無盡藏なることは、一例を擧げて申しますと、三十七八年の戰役に於て、日本が毛皮を買ふた、其毛皮が平素は七十萬出るのであります、然るに非常に寒い爲に日本軍では防寒具として必要であるから、是非其土地で以て百二三十萬買ひたいと云つた所が、出來た、百二三十萬と云ふと少ないやうてありますが、二枚繼ぎだから殆ど三百萬である、それと同時に露西亞も買つて居る、日本と同じやうに山羊の皮と云ふものを買つて居る、是がモン／＼出て來る、どう云ふ譯かと云ふと、北京の先きに張家口と云處があつて、其れから蒙古の方について、ドシ／＼蒙古から送つて來る、殆ど無盡藏、是は一例であります、其様な處であります。

○天津の勢力範圍 天津の勢力の範圍は實に廣い、北清と致しましては、直隸省は勿論のこと、山西省、或は陝西省、山東省——山東省の如きは、一省にして日本

の本州より廣いさうであります、それから河南、湖北の一部、若くは内蒙古と云ふ處に、總ての得意、所謂勢力範圍がありますから、非常に購買力が強い、てありますから、滿洲とか朝鮮も宜いのであります、畢竟するに支那本土を忘れてはなるまいと思ふのであります。

清

○清國の外國貿易 斯様に商業が非常に盛んである、ちよつと申しますと、清

實

國の輸入の總額はどうかと云ふと、三億萬以上であります、清國に参ります

業

る輸入の總額が三億二千何百萬であります、而も其内英吉利が五割半、乃至六割を

管

占めて居る、三億の内で一億八千萬圓以上は輸入して居る、日本はどうかと

見

云ふと悲しいかな今の所では一割五六分位のものしか入つて居らぬ、故に英吉利は、

税

關長はロバートハートを以て、どんな奴が行つても税關を抑へて居る、此頃大分

問

題になつて、税關の事は支那でやると云つて、鐵良を稅務大臣にしたと云ふやう

な

なことがありますが、英吉利は許さぬ、支那の貿易をして我邦英國より以上に立つ

た者ならば、此權利を棄てるけれども、否らざれば此權利は棄てないと言つて威張

つて居る、即ち三億以上の輸入があるに拘らず、英吉利は優に五割、乃至六割を持

つて居るのであります、日本より遠い所の英吉利が此の如きものである。

清

○日本の輸入僅に一割五六分 日本は支那の爲に、多くの人を犠牲に供し、多く

韓

の財力を費したるにも拘らず、又おまけに近い國であるにも拘らず、僅か一割五六

實

分位の輸入である、吾々は微力でありますけれども、切めて日本で出来ない物は

業

仕方がないが、出来る物は他の國の物を防いで、日本の品物を入れたいと云ふ、

管

及ばずながら考を持つて居るのであります。

見

○獨逸の商權擴張 然るに茲に最も諸君に申上げなければならぬ事は、此頃獨逸

獨

逸には膠州灣に自國の駐屯兵があります、之に年々軍需品を持つて來る、さうす

ると獨逸政府が如何なることを言ふかと云ふと、元來各國が兵を置き軍艦を派する

のは、其國民の秩序安寧を保つのは固よりであるけれども、商權を擴張すると云ふことも一の目的である、故に清國に行くべき貨物にして、一商人にして三百噸までの搭載を許すと云ふ制度を置いた、それを以て膠州灣に軍艦が往く時には、三百噸までは許すから、ドン／＼支那へ送つて呉れと云ふ爲に、擧つて皆之に入れる。

清 獨人の遣り方 それが爲に天津以西、若くは以南に於て、ビールの如き、殆ど獨逸ビールにあらざれば見ることが出来ぬのであります、斯くして商權を擴張して居る、又甚しきに至つては、軍需品として持つて來て、不用物品拂下げとしてやつて居る、私は是は獨逸として、如何に商權擴張としても、餘りひどいぢやアないかと云つて、領事館に往つて充分確めた、然るに領事館員曰く誠に残念ながら其事實を否認することは出来ないと云ふ答をした。

○空船の航海六千噸の船に乗客三人 どうですか諸君、退いて我邦の有様を見ると、宇品から朝鮮に行き、大連から宇品に行く御用船が澤山ある、是等は日本に於

ても瀛船として大なる部分、即ち五千噸、若くは六千噸、吾々が行つたのは二千噸以内の船であるけれども、此軍需品を供給し居る船は、五千噸以上の大きな船である、此船が現在に於て空船で行つて居る、私は大連に於て、ホテルにお客様があつた、其れは旅順に居る某少將の奥さんであるが、其人が御用船で今着いたと云ふ所、然るに御用船が六千噸の船であつて、私と他に人が三人乗つて居つたさき、荷物も無ければ人も居ないから、船が動揺して非常に困つたと云ふ話があつた、私に話があつた、空船でもつて往復をして居る、日本から大連なり北清なり澤山に船も往くし人間も往く、之を搭載し若くは便乗することを日本では許しませぬ、然るに獨逸の如きは、軍艦を以て之が搭載を許す、進んでは不用物品拂下げの名の下に商權を擴張する。

○獨製の模造品 故に今日は英吉利の商權を大に侵害して居る、併せて日本の商權を侵害して居る、其證據には色々の雜貨、吾々が着て居るメリヤスのシャツであ

れ、獨逸の品と云ふものは非常に來て居る、此れは英吉利だらうと思つて、能く見ると獨逸、少しも違はぬやうに拵へて來るてす、殆ど英吉利、若くは我邦の品物を凌駕して輸入しつゝあるのは獨逸である、是は全くの事實であります、是はたゞ事でない、容易ならざる事と思ふ。(拍手起る)

○白河の遡航艱難 日本のお役人のお出でになつて居るのに悪る口

を言つては濟みませぬが、お役人なりお役所なり、獨逸の所謂商權擴張と云ふ所に重きを置いて貰ひたいのである、然るに悲しむべきことは、天津に日本の船が着いて、天津の港は太沽と云ふ處であります、此れは御承知の方が澤山いらつしやいませうが、此太沽は誠に遠淺であつて、本船は十五哩の沖に居る、千噸以内ですと、白河と云ふ河を溯つて、紫竹林と云ふ天津の真ん中まで來られる、けれども是は千噸以内でなければいけません、其以上は十五哩遠くの沖に船が居つて、艱難で荷物を運ぶ是が不便である、千噸ならば白河を遡つて往ける、けれども千噸以上でなければ

は太沽までの航海が難かしいのであります、所が千噸以上の船を持つて往くと天津にははいれませぬ。

○是に御摺りなさい 現今では大阪の商船會社が、太沽沖の艱難がありま

するので千餘噸の船を造つた、吃水の浅いやつを造つて中まで入つて往く、非常に便利であるが、何しろ船が小さい爲に、大海に出ると動搖がひどいので、外國人はあの船には生命財産は托されぬと言て居る河に入る船だから吃水が浅い本統の大海に往くには危険であるから乗らぬと云ふ、吾々も郵船會社の船に乘りましたが是は十五哩の沖までしか行きませぬ、此席に武田君もお在で、ありまするが、先生等のお出での際には、艱難がひどく揺ぶれて繩に吊されて本船に乘移つたと云ふやうな例がある、吾々は好い鹽梅に、サアこれにお摺まりと云ふ、其れに飛附いて本船に乗ると云ふやうな譯てありましたが、其今の大阪商船會社の大信丸に乗つて往くと、天津の白河を遡つて往くことが出来る、是も潮加減でなければ來られない。



○軍衛からは劍呑み

今商品のことを申しましたが、此處に船を持つて往つたのです、荷物をどつさり持て來た、さうした所が、天津邊りは總て八尺を以て木材の長さにして居る、故に大きな木がない、荷物を持つて往つて、其荷物を陸揚げする時に非常に困る、所謂棧橋に供すべき材木がない、非常に困つた所が軍衛に有る、所謂軍衛です、陸軍が保管せられて居る中に有る、之を借りに行く、貸さない、商人などにそんな物を貸すべきものでない、怪しからぬ話だと言つて、劍呑みを喰はされたゞけて借りることは出来なかつた。

○外國領事からは好意

其所で止むを得ず、商人が獨逸領事館であつたか、佛蘭西領事館であつたか、何處かへ往つて借りたら宜からうと云ふので、獨逸領事、若くは佛蘭西領事の處に住つた所が、貸すことは當りまへ、ドン／＼持つて往くが宜い、其れからもそつと佛蘭西租界の方で陸揚げをした方が便利ぢやアないかと云ふやうな工合で、ドン／＼自分の方へ陸揚げを仕向けるやうにして居る、どうてござ

清 韓 實 業 管 見

いませうか、獨逸では軍艦を以ち、不用物品拂下げの名の下に商權擴張をやつて居る、日本では同じ國でありながら、唯官民の差の爲に、其物が借りることが出来ぬと云ふことでは、どうして此商權擴張が出来ませうか、是は決して嘘詐りではない、實際の話である、それ故私は決して其役所に對して悪く言ふのではありませぬが、戦後の經營をする、さうして日本の勢力を増大ならしめ、若くは貿易を盛んにすると云ふならば、官民相一致してやらなければならぬと云ふことを轉た感じたのであります。(拍手喝采)

○工藝學堂と日本語の操縱

それから此現在天津に居ります所の顧問官がある、日本人として招聘された、或は法律家も居り財務家も居る、教育家も居る、此等はなか／＼能くして居る、日本に對して國家主義が盛んであつて、出來得る限り日本の利益を圖つて居る、殊に日本語を非常に傳播して居る、今工藝學堂と云ふ處で、藤井と云ふ人が顧問をやつて居りますが、此人は非常に工藝に熱心であつて、

教科書を教えるのに日本語でやつて居ります、故に先きに日本の言葉を速成科でもつてドン／＼教えて、それから化學其他の事に就ても、日本語で教えて居る、私が驚いたのは、稽古をして居る所を見に往つた所が、日本語を巧く使ふ、而已ならず講義の筆記を日本の假名でやれば格別だが、片假名を用ゐるのは地名か何かで、普通の文句は平假名でもつてやつて居る位に進歩して居る、それは皆顧問の苦心であります、袁世凱の顧問に成つて居る。

○驚く可き昔時の牢獄 監獄に往つて驚いた事と申すは村田と云ふ人でありました、此人が監獄を見せるからと云ふので参つた所が、其日に支那人の馬車を雇ふて、言葉がちよつと行違ひました爲に、本統の監獄へ往けないで、昔の知縣の處に往た、是は過ちの功名で、私ばかりでせう、本統の牢屋を見て來たのは……知縣の處に参つた所が、全く傳馬町の牢屋などは知りませぬが、芝居や何かで見る通り、罪人を呼び込む工合、訴訟人を呼び込む工合、ギリギリツと大戸が開いて、色々訴へる

奴があり、下げられる奴もあると云ふ工合で、見せると云ふものですから、知縣の案内で、現在の牢屋でありますが、即ち昔風の牢屋で、其れを見ました、皆足に鎖を付けて、實に慘憺たるものであります、勿論牢屋では何もして居ない、向ふの隅に青い顔に髻を生やした牢名主が居る、此方には此頃入つた奴と云ふやうな工合で、昔の日本の牢屋を芝居で見ると些つとも違ひませぬ、支那人でも牢屋に入ると、青い面をして、髻蓬々として、成程牢屋に居るかと思ふやうな感じがした、所謂牢名主と云ふやうな制度もあるさうであります是だけ見たのは自分の儲けてあります。○監獄内の工業新機械の應用 翌日本統の監獄へ往つた所が、是は矢張日本と些つとも變らんで、例の懲役人の着物、赭ツちやけた色の服を着て、少しも違はぬ、さうして罪人は柔順であります、少しも抵抗など、云ふことはしない、永い間どうですかと言つて聞いた所が、たつた一人喧嘩をした者が有つたが、其他無いと云ふことでありました、此れが熱心に段通、其他日本から這入る木綿と云ふものを作つ

て居る、所謂ジャカード、若くはボタンと云ふ器械を買つてドン／＼やつて居る、又なか／＼成績が好い、又圖案などもして居る、どうも驚いた是は袁世凱が非常に金を費して、年々十萬位此れに充てると云ふことで、非常に進歩して居ります。

○阿片を喫んで寝ながら商談　そんな工合で、道路の設備監獄の制等大に革新の

韓　氣運に向つて來た天津、若くは北京等に於ては、今現に總ての革新をやりつゝある、併しながら未だ箇人主義で、どうも國家思想が乏しいやうです、商人も大きいのが實　有る、私は幸に或る支那人と合同の事をして参りましたが、なか／＼話が分り易い、管　唯習慣として困るのは如何なる店に往きましても、どんな商人の店に参ても奥へ入つて休む處がある、其休む處に枕が有つて、直ぐ寝るです、寝て阿片を喫むやうに出來て居る、商談でも何でも其處です、少しやると話が極らぬ内に寝て仕舞つたり何かすることが澤山ある、それは支那人の通弊で仕方がない、けれども中には煙草も喫まない、酒も飲まない、阿片も喫まないと云ふ支那人もある、將來大成を期

するのにならう云ふ事をする、時間を空費していかぬと云ふので、私が今回合同の約束をして参た人などは、煙草も酒も阿片も喫まないと云ふ、なか／＼しつかりした支那人であります、金も有り又信用を重ずること非常で、なか／＼分りが宜いのであります、先づ商賣の習慣はそんな工合。

○用談は藝者屋　それから向ふては藝者のことを姑娘(クレーニャン)と云ふので

實　す、度々藝者の話をするやうですが、殆ど日に三千圓位の上りがある、甚しき時には五千圓位藝者屋の上りがある、是は何でそんなに盛んであるかと云ふと、總て商賣の取引、或は決算を致します時には、是非其藝者屋に往つてしなければならぬ。

見　藝者屋と云つても大きいのはありませんが、幾つもある、其處へ往つていろ／＼話をする、それで藝者を側へ置いて話をする、日本の藝者と違つて三味線を引いたり何かしない、向ふの藝者は三味線など云ふ物は決して手に取らない、音曲は蛇皮線胡弓と云ふやうな物であります、其れは誰が扱ふかと云ふと男です、藝者に

男が附いて来る所謂箱屋見たやうな者が居つて、音曲は其者が扱ふ、藝者は決してやらぬ、それで藝者が歌もうたうし踊もやる、吾々が見ては些つとも分らぬ、況や足が例の小さな足ですから、本統に立つて居られない、中心を取つて巧くやつて居るけれども、ブル／＼して居る、些つとも面白くないが、向ふの人には餘程面白い。

○芝居と役者の給金 芝居は幾つもある、芝居は幾つもある、面白くはないが、向ふの人には餘程面白い。

○芝居と役者の給金 芝居は幾つもある、芝居は幾つもある、面白くはないが、向ふの人には餘程面白い。

よりも餘計出して居る、一ヶ月に三千圓取つて居る役者もある、面白いから往つて見ろと云ふので、往つて見ると、ドンチャンドンチャンで些つとも分らぬ、けれど

もあれが三國誌で、關羽が義の爲めに曹操を逃がした所、あの位面白い事はないと云つて、向ふの人は喜んで居る、吾々には些つとも分らぬ、けれどもなか／＼盛ん

であります。

○正金銀行支那人の預金 此芝居にも増して盛んなことは正金銀行の預金で今日

では支那人だけで一千萬圓以上あります、支那人と云ふものは、なか／＼預金など

はしないのであります、正金銀行に現在一千萬圓以上あります、北京は三百萬

圓以上だそうであり、天津は一千萬圓以上の預金であります、其他正金銀

行に一千萬圓預ける位ですから、上海香港銀行邊りの預金は莫大だと云ふことであ

ります、以て是等支那本土の最も購買力の有ること、最も富のあることが了解せら

るゝてあらうと思ふ。

○北清と南清とを忘るゝな 唯滿洲が宜いとか、朝鮮が宜いとか、云ふばかりで、

此熱に浮かされて、折角の本土を失ふことはどうも宜しくないことと思ふ、況や今

言ふ通り居留地の制度も好模範の處でありまして、先程申しました皆川廣量君が居

留地行政委員で、又小松林蔵といふ人達と共に牛耳を執つて、居留民の悪い奴は制

裁を與へると云ふやうな好い組織をして居る、さう云ふ譯でありまして、大に此北

清、又は南清等は、最も有望なる處と確信して居ります。

○蓄妾の習慣と袁世凱 諸君も既に御承知の彼の有名な袁世凱、此人は支那の副

見

管

業

實

韓

清

見

王とも言はれる程で、兵馬の權も有るし非常な權力を有つて居る此れがなか／＼外交術にも長けて居り、日本には餘程精神的好意を寄せて居ると云ふことであります。が、外交術が巧みでありますだけに其實何やら分りませぬ、勢力は非常であります又妙なことで、是は諸君に能く申上げて置きたいのは、支那人は蓄妾の弊がある、蓄妾と云ふと、犬か何かのやうであるが、所謂妾を置く風がある、奥さんが、第一、第二、第三、第四と云ふやうことに成つて居る、妙な工合で巧く出来て居る、其第一の奥さんに對しては、第二の奥さんは非常に敬意を表して居る、第二の奥さんに對しては、第三の奥さんが敬意を表すると云ふので、家庭が旨く治つて居る、袁世凱は九人妾を持つて居るやうであります、どうか蓄妾の好きなお方は、支那へ移住せられんことを希望致します。(大笑)

○西太后の權力 北京に於きましては、西太后の權力は非常なものでありまして、現に西太后に謁見した人にも度々遇ひました、今も往たと云ふやうな人に遇ひまし

たが、非常なものだそうです、西太后が正面に居られて皇帝は一段低い左り手に在らツしやる、さうして向では西太后及皇帝と云ふので、皇帝に及びと云ふ字が附いて居る、随分面白い、それから萬壽山と云ふのがありまして、吾々が行きました時には、西太后が其萬壽山に、避暑に往くのでありますか何でありますか、其方に今往つて居ると云ふことで、此間の道路の設備などは、有繫西太后、塵一本も無いやうに始終掃除を遣つて居る。

○紅塵萬丈と水溜に投身 概して向ふの砂と云ふものは形容では無い正銘の紅塵萬丈であつて、天氣の好い時には向ふが見えぬ位、黒い洋服など着やうものなら、緻密に砂が入つて、ブラシで掃いても容易に落ちぬ、其位の砂であります。雨が降ると道が悪い、向ふで身投げをするのは、往來の水溜りに身を投げる、それで死ぬ其位深い、又其位道路が悪いのであります。萬壽山に往くだけの道路は四里以上もあります。塵一つもない、又水をずつと撒いて水と云つても大變です、啣

筒か何か有れば宜いが、小さな桶で擔いで来て撒く、四里の間それをやつて居る、なかく／＼えらひ、其れを以ても西太后の勢力が分ります。

清 ← 〇日本商人の追拂 支那の内て北京だけは鎖國主義です團匪以來日本人が店を持つたり何かした所が、此處は開港場でないからと云つて、抗議を申込んで、段々追ひ拂はうとする、日本の外交が甚だ勢ひが弱い爲に、今追ひ拂はれむとして居る、實 誠に寒心に堪へぬ次第であります。

管 〇汽車に乗った儘で倉庫に封鎖 北京の前途に就ては中々多望であります、鐵道でも支那一流變つた所があります、漢口との鐵道は四日間掛かるのですが是は夜は往かない、晝間ばかりで四日間掛つて居る、さうして夫に就て可笑な事がある、と申すは馬賊の襲來などがあり、泥棒があると云ふので、夜に成ると客を乗せた儘、すつと列車を入れます所の倉庫に入れて仕舞ふ、さうして倉庫へピンと錠を下ろす、誠に心許ないのであるが、此頃は月曜日毎に、三十六時間で晝夜兼行で漢口に往く

ことに成りました、一週間に一遍であります、其他は今言ふ通り、四日間掛かるのであります。

清 ← 〇外交は須く開放主義 漢口から上海へ往のには、今度揚子江を船で下つて、是も四日間掛かる、斯う云ふ順序ですから、非常に好くなる、それで北京の如きは、今にして開放主義を探りませぬと、他の國である、他の國ですれば、他の國で利權を先きに取りますから、北京に就ての外交政策としては、宜しく開放主義を以て進む方が宜からうと思ふ。

管 〇北京の城廓 北京の城郭の立派なこと、城廓などは今云ふ奉天より大きいです、城の高さ五十尺もあります、上が又馬車で歩くことが出来る、能く軍人などは馬で運動旁歩いて居る、門も大きい、團匪の時に、正陽門ですか毀されましたが、何の必要があるか今修築して居る、北京だけは昔と少しも違はぬ、所謂鎖國主義である。

○乞食、宦官の去勢、滿韓人の軋轢

北京に乞食の多いこと非常である、又喇嘛寺、孔子廟、天壇など云ふ、随分觀る所がございます、それから宦官と云ふのは、是は日本の侍従であります、是は墨丸を抜いて、去勢して仕舞ふ、それでなければ宮中に出入されぬそうです、日本で李運英か西太后のお氣に入りだとか何とか言つて居つたが、向ふへ往つて見ると、宦官はまるで去勢して仕舞ふ、是もお好きな方は、一つ支那へ往つて去勢を遊ばしたら宜からうと思ふ、(大笑)それから矢張滿人漢人の軋轢があるとうです、ちよつと例は異しうございますが、今は餘りないやうであるけれども、昔の薩州長州と云ふやうな、其れとも違ひますけれども、其様な工合で確かに軋轢はあるといふことであります、又今日は、此處に宗教家のお方も見えに於て居られますから申しますが、北京では、宗教は三つあります、即ち喇嘛教、道教、佛教で、西太后は道教であります、之れが一番盛であります、道教と申しても弓削道鏡ではありません、其他北京朝廷の事に就ては、色々聞いた事

もあるし、又聞き知つた事もあるけれども、是は別段申上げる必要もない、要するに此南北に於ける支那本土の貿易は、決して仇や疎かには出来ませぬ、最も望を囑して仕事をすべきものと自分は觀察したのであります、デ視察談は是だけにして、是より自分の意見を申述べやうと思ひます。(喝采)

## 結論 對滿韓意見

私の視察談に就きまして、何か御質疑等もございましたり、或は斯う云ふ事はどうであつたらうかと云ふやうな御氣附がございましたならば、電話なり何なりで仰せがございましたれば自分の調べぬとは他の人を以て調べさして申上げることには致しますから、どうか朝鮮及清國に對す事柄に就きましては、御遠慮なく御申込を願いたい、自分の研究にもなりますし、出來得る限り諸君の御参考に供しやう

と存じます、それで是から自分の意見を申述やうと思ひますが、只今御手許に差上げました通り、僅かな旅行で立派な意見を持つなど、云ふことは、甚だ嗚呼がましいのでありますが、熱心の極、やりましたのでございませうから、其御含みでどうか御聴取を願ひます。

### 第一、韓國に對しては漸進的革新の實を擧ぐる事

これは只今までの視察談に於て申上げました如く、なか／＼韓國の如きは種々の設備を要しますから、それを速成にやることは實に不可能であります、且朝鮮人の性格氣質、總て之に伴ふてやらなければ成らぬでありますから、是は漸進的にやつた方が宜いと云ふことは、敢て詳しく申上げないでも、視察談其他をよく御参照下さいませうれば御了解と存じますから、深く申上げませぬ。

### 第二、統監府員は腰掛たらざる事

#### 土着の決心ある事

これは、詰らぬ事でありませうが是非さうして貰ひたい、只今申上げます如くに、天津の居留民は好摸範の居留民であると云ふのは何であるかと云ふと、妻を連れて土着の決心である故に、誠に睦くも行き、且醜態醜聞が無いのであります、それ故に私は決して統監府に向つて醜態醜聞があるとは言はない、そんな事は無いでありませうけれども、ホンの腰掛と云ふやうな積りで、奥さんも連れず、投機心的の行動と云ふものは餘り宜くない、況や此朝鮮問題と云ふものは、長い間我日本の問題として、殊には多くの英雄をも殺し、種々なる事もしたのでありますから、此等は大に心を着けて總ての設備をして貰ひたいと云ふ私の熱心であります。(拍手喝采) 故に統監府員たる者、土着の精神を持ち、朝鮮人たる心を以て大に仕事をして貰ひ



たいと云ふのが、私の精神又熱心であります。

### 第三、官尊民卑の弊を進て矯る事

朝鮮はどうしても官尊民卑といふ事が日本よりも甚どいそれ故に商業でも何でも決して發展しない、何か學問あり智識ある者は役人になる、何を苦んてか商工業に従事する者はない、そこへ持つて来て日本の役人が朝鮮へ行つて尙其以上でもありませぬけれども、朝鮮の風習に染むやうな事があつてはいけぬと思ふので、進んで管業は自分からして、寧ろ反對に民尊官卑位にして、さうして商工業の發達を圖らなければ誰もやりてが無い、如何に口ではかり種々な事を申しても、身弱らなければ決して情弊の去るものではない、故に私は官尊民卑の弊を自ら進んで矯ることが必要であらうと思ふのであります、(拍手喝采) 其他言いたい事もありますが、是は御察しを願います。それから

### 第四、滿洲に對しては早く政府の方針を一定する事

#### 軍政民政の區別を廢する事

清 是はです、商工業者が發展の途を講じやうとしても政府の方針が一定して居なければ仕事が出来ない、況や今日の有様に於ては、或事をしやうとしても、軍政署に願ひ民政署に願ふ、民政署で宜いと云ふものは軍政署がいけない、軍政署が宜いと云ふものは民政署がいけないと云ふやうな風であります、何て是れて仕事が出来ます、戦後の經營とし、日本は此滿洲なり其他の經營を能くしなければ、上は 陛下に對して恐入るのみならず、旅順のあの忠勇義烈の働き、あの忠勇義烈の人々に向つて何の顔があるか、のみならず私は今日の場合であつたならば現狀維持も六かしいと思ふ、日本の財力、富、戦をしても外から金を借りなければ出来ないと云ふやうな有様で滿洲なり朝鮮なり、一千萬圓の借款をすると云つても容易ならざること、又滿

洲經營も實に金が要る、でありますから、宜しく政府は一定の方針の下に、ごく便利に、しかも奨励の法を講じて、さうして此滿洲の經營をしなければならぬ、就きましては私は開放するのであるか、鎖國にするのであるか、干渉するのであるか、放任するのであるか、是等も早くに決定して貰ひたいのであります。それから

### 第五、交通機關の速成を計る事

大連へ行く船舶、若くは此以上にある鐵道の聯絡、鐵道の設備、それ等に就ても、今日の儘ではなかく旅行したくも出來ない、貨物を送りたくも送れない、故に私は交通機關をして、どうしても早く速成して貰ひたいと云ふ意思であります。それから

### 第六、貨幣制度の一定を計る事

此貨幣制度の一定と云ふことは、曩に私が申上げます如く、今は正金銀行が一手にやつて居る、總て獨占事業に宜いことは無いけれども、一手てやつて居ります、一手てやつて居るならば、能く自分等が牛莊は牛莊、或は山海關以北は斯うである、と云ふことは、今日までに既に研究了つて居らなければならぬのである、然るに非常なる複雑、此の爲に渡航者の不便は勿論、貨物の澁滯も非常なものであります、故に是は無論貨幣制度の一定と云ふことをしなければ、決して商權の發達發展を望むことは出來ないのであります、之を是非して貰ひたい。次に

### 第七、支那本土の貿易を奨励する事

官民懸隔の弊を除き一致其衝に當り官衙及役人は融通的頭腦を持つ事

是は朝鮮滿洲の熱が盛んで、支那本土の貿易を忘れはしますまいが、あまり問題に

なつて居らぬ、是は今謂ふ英吉利の輸入、又輸入總額其他から論究して是非官民懸隔なく、どうも今迄官と民との間が懸隔して居るせいか臆劫である、役所に願ふ事が總て臆劫である、是は今謂ふ獨逸のやうに軍艦までには往きませぬでも、御用船なり其他空いて居る船があるならば、使はせるとか云ふやうな事をして、獎勵をして貰ひたいのである、支那本土の總ての貿易と云ふことに就て獎勵をして貰ふと云一方に於ては所謂貿易を盛にして利益を得る、一面に於ては滿洲の經營も朝鮮の經營も出来る、けれども利益若くは利殖と云ふことがなければ、到底國を維持することが出来ない、金を出せばかりては仕方がない、況や支那人は同文同種と云つて、大變日本人を喜ぶのみならず、日本の品を非常に歡迎する、同じ品物の價、同じ品物の地質であつたならば、無論日本の品を取るのである、悲いかな是が日本であるか獨逸であるか分らぬのである、それ故に出来る限り之に商標を付すると云ふやうな總ての方法を講じて、さうして獎勵をする、既に滿洲では大藏省が妙な印紙を貼

清 韓 實 業 管 見

つて信用程度を得るやうにして滿洲に於ける物品の賣買をする上に就て、大に利益を與て居ることがある、それでありますから、出來得る限官民一致して、さうして此支那本土の貿易を盛にすることを希望する。それから次に

### 第八、北清太沽に於ける水陸の交通設備を盡す事

是は今謂ふ十五湮沖の艇でありますから、多くを望めば築港で、是も袁世凱の力で出来ないことはないですけれども、それは餘り遠大の望であるからいけないとした所が、今謂ふ千噸位の聯絡船を造りたいと思ふのです、大阪商船會社がやつて居るやうな、是は日本から往くのであります、郵船會社若くは政府、或は日清合同でも宜い、此に千噸位の聯絡船を置きますれば、二千噸以上の船で太沽まで往き、それから其先は千噸位の艇舟があれば、優に天津の紫竹林まで往けるのでありますから、此聯絡を支那政府と合同してやつたら宜かろうと思ふ、私は袁世凱に頼んでや

清 韓 實 業 管 見

つたら宜かろうと思ふ、之をやると天津の繁盛になり、日本の貿易に取つても非常な利益である、全く是は宜いと思ふ、所謂二千噸以上の船を以て日本から往くやつを、彼處に聯絡船を置いて之に托して陸揚をしようと言ふと非常に便利である、之が私は日本貿易の第一捷路なりと見て居る、どうか此交通設備は盡して貰いたい。それから

### 第九、商工業機關の銀行を設くる事

これがどうも、正金銀行を悪く言ふのではありませぬが誠に大きな商人には宜いが小さい商人は信用して呉ない、日本商人も悪いのであります、悪いので正金銀行に捨てられたらそれつきり、何時までも發展することが出来ぬ、それ故に分らぬ商人、信用を失するやうな商人があれば、之を導いても改良せしめてやると云ふのが、私は銀行などの或一部の職務だらうと思ふ、それをどうも日本人はいけませぬ、支那

人に限りませんと言ふ悲觀の考を以てやつたら、商權の擴張は勿論の事、商工業の發展を圖ることは出来ないと思ふ、其故はどうか商工業機關の銀行を設くること、是はあの地方の人が異口同音に熱望して居る、私は尤もな事と思ひます、別に此商工業機關の銀行を設ける、それは斯う云ふのがある、爲替の作用であります、是は商の秘訣に屬してありますけれども、商賣するに於ては、北清貿易等に對しましては、此コップが一圓であるから一圓五十錢に賣れて宜いと思ふのは大違ひである、爲替相場がわるいと何にもならぬ、一圓で一圓五十錢、五割儲けたと思ふけれども、爲替相場が違ふと大變損をする、其例を申します、日本の綿布綿絲が澤山往つて居る、非常に英米其他から往つて居ります綿布綿絲を拒いて、日本から綿絲綿布が澤山往つて居る、それで御承知の通り綿絲から言ひますと、綿絲は此間までは百圓内外のものが百三十圓になつて、百圓のものが三十圓上つた、支那人は今まで百圓で此綿絲を買つて居つたものが、日本の相場が百三十圓に騰つた、非常に高くなつ

た、それであるから支那が買はないだろう、きつと買はないだろうと思ふとどん／＼買つて居る。

其の買つて居る理由はどうかと云ふと、兩の相場が今非常に高くなつて居る、銀相場が非常に高い、今百三十圓で買つて居る絲を百圓で買つた時分には、兩は八十兩であつた、日本の百圓に對して八十兩であつた、然るに今日は兩の相場が高くなつて居るから、六十兩が百圓の相場、それ故に今迄八十兩で買つた所のものが六十兩で買へる、買へるから此方の物が百三十圓にならうが何であらうが、自分の方の兩が六十兩だから幾らでも買ふ、日本では高くなつて居つても、向ふの兩相場が騰つて居るから少しも痛痒を感じて居らぬと云ふことがある、だから對清貿易に向つて、決して唯物貨の相場だけを見てはいかぬ、所謂爲替相場と云ふことに着眼しなければ大失敗であります、それで何が爲に商業機關の銀行が要るかと云ふと、正金銀行で今日吾々が九十二弗若くは三弗で買つて居る、果して其相場が正金銀行の言

ふ通りであるか否やが問題です、是は私は深く研究致しますか、正金銀行はよもや嘘も言ひますまいが、手数料も其中に含蓄して居る、それからどうも銀相場の變動が劇しいと云ふ所から餘裕を見て居ることが確かである、故に非常に高い、本當に分析して見れば、左程高くないやつが高くなつて居ることがあらうと思ふ、それが獨占事業だから一向分らぬ、他見からすれば——故に他の之に競争すべきもの、若くは商工業機關の銀行が出来れば、本當の事が出来ると思ふ、是が商人として非常な利害問題であらうと思ひます、(拍手喝采)之に就いて、此間牛莊で九十三圓で買つて牛莊紙幣が残つて居つたから、日本では使へぬから正金銀行に持つて往つた、九十三圓で買つたと云ふのは、日本の百圓の紙幣が九十三圓にしか成らぬ、それ故に若も百圓銀貨を買ふ時には百七圓要る、日本の紙幣が七圓足らぬのですから、百七圓出さなければ百圓の銀貨が取れない、其の百圓持つて居つた、仕方がないから正金銀行に持つて往つたら、九十八圓です、相場が下りましたと斯う云ふ、然らば

本當の相場はどうであるかと云ふと、私が牛莊で買った時は、相場が一オンス三十一片である、此頃はそれが三十片になつた、して見ると一片の點から論究すると、果してそれが本當の利率であるかと云ふことは問題だらうと思ふ、是は研究中だから何とも言へませぬが、兎に角獨占事業は宜しくない、是は本當の對清貿易、其他海外貿易をやる方は御承知でもありませんが、大に注意を要することと思ふ、兎に角實 商工業機關の銀行をやらなければ、一方で獎勵する人がない、又荷爲替も組めない、業 今の正金銀行は大きな一二の者に向つてはやつて居るけれども、其以下の者に對しては悲觀説だから、さう云ふ者を相手にせんでも支那人と取引すれば宜いと云ふやうな事で一向やらぬ、到底日本の商權擴張とか、商業發展は出來ないのであります、故にどうしても商工業機關の銀行を早く立てたいと思ふ。それから

### 第十、對清貿易に當る商人は自から生活の度を

#### 低くする事

是は大連なり奉天なり、或は營口なり天津なり、日本商人の支那人を對手にやつて居る所が、家屋の構造もさうなのであります、要するに日本の商人の彼方に往つて居る者は皆ハイカラである、所謂歐羅巴に往つて商賣するやうな風でありませすから、着る衣服も立派、勿論洋装である、其他食物と云ひ何と云ひ、生活の程度が甚だ高い、高いから勢ひ餘計な儲もしなければ成らぬ、一面反對には支那人の生活の度が低い者があつて廉く賣つて居る、到底競争が出來ぬ、さうして日本の商店に入つて見ても、なか／＼今日入らつしやいと云ふやうな事は言はぬ、見ても見ないやうな風をして、此れは幾らです、ア、幾らと云ふやうな事を言つて客に對して甚だぞんざいである、それが詰り歐羅巴に往つたやうな氣で居る、其の爲に自ら生活の度を高くして、商品の價を高くする、儲けなくちや食へないから、一割儲ける

所を二割掛けると云ふやうな風になつて居る、故に吾々の販賣する商品も、三割どころではない、二倍位になつて居る商品が澤山あります、どうか是は、ハイカラも結構であります、まだ其處までは至らぬのでありますから、生活の度を低くして、前垂掛に往かないまでも、出來得る限り客に接することを鄭重にし、さうして餘り物品の價を高からしめないやうに、是は自分が経験して居るのでありますから、どうかさう云ふ事に致したいと思ひます。次には

### 第十一、一致團結する事

是が必要で、先程お話申上げました通り、日本商は不一致であの人が往つたから己れも往かうと、いふやうな事で、まるで親のかたきでも討つやうであります、これはなか／＼難い事でありませうが、或は俱樂部の組織をするとか、其他出來得る限り團結する仕掛をやる、或は領事館なり何なりが其方針を取つて獎勵して行く、

領事館と商工業者との間は仲を宜くして假令は願に行つても直きに許してくれる、ア、君等が言つて来るんだから宜からうと云ふやうな事に一致團結して、お互に公德を守つてやると云ふことが必要と思ふ。それから

### 第十二、支那人と共同事業を經營する事

支那人の方でも紹介者が好い人であればやる、なか／＼信任をしないであります、紹介者が宜ければ必ず向ふてはいやと言はぬ、何となれば支那人は新規の事業を起すに就て、自分の名前を出すことを少しく厭ふ弊があるです、と云ふものは矢張官尊民卑の弊で、あまり商人が盛んな事をすると、嫉視され、或は種々なる方面から嫉まれると云ふことで、多く守成主義を取つてゐる、故に日本人が之と共同して、利益も一緒にやる、斯う云ふ事もすると云ふ堅い約束なら、唯信用程度が強い爲になか／＼に應じないけれども、是は出來得る限り相當の人が紹介の勞を執り、

所謂仲介に立つてやれば、必ず成功すると思ふ、是は私の最も認む所であります。

### 第十三、外交官の地位を高め併せて外交の

#### 敏活を期する事

是が或は天津なり北京なり其地往つて見ましても、外交官の地位が、どうも日本が他の國より遅れてゐる、それは何であるかといふに、所謂外交、社交上の務です、社交上の務も、どうも他外國の人には負けてゐるやうです、それは何であるかといふと、日本の外交官の月給とか若くは手當其他をきめたのは、明治十八年だとうてあります、其時分から今日までちつとも變らぬ、世の中が進歩すると同時に之を待恐するの道も盡してやらなければならぬ、然るに其時から今日までちつとも變つて居ない、故に社交上の務と云ふものが、日本人は誠に缺點が多い、佛蘭西なり或は英吉利なり獨逸なりの外交官は、孜々として社交の事をばやり、同時にいろ／＼な

利權も得るけれども、日本人は金が欲しいか、或は使へないか、誠に其邊に於て機敏を缺くことがある、故にどうか是は、私等の言ふべき事ではありませぬが、赤誠以て言ふのであります、外交官の地位を高めると同時に……高めると云ふとも異しいですが、所謂待つ道を講ずる、さうして其れと同時に宜い人を入れたい、地位を高くすれば随つて良い人も來ますし、又優待の道も講ずる、併せて外交の機敏を謀ると云ふことが私は必要であらうと思ひます。

以上甚だ粗末なる考、又視察談の如きも杜撰極りないことではありますが、要するに唯自分が實際を見聞を致しまして、大連なり旅順なり、其設備の雄大なることを見るに付けましても、到底尋常一様の事を以て致しましたならば、將來の日本は餘程不幸なる事であらう、今にして官民一致して經營の任に當り、若くは對清貿易の擴張を圖らなければならぬ、斯くすることが國家の最大急務と確信しまして、視察談を兼て茲に諸君の御聽を願つた譯であります。(拍手大喝采)



## 商品に對する清國人の嗜好

支那貿易上に就て本邦より輸出する商品の如何なる構造、形體、圖樣、配色が彼の習慣、風俗人情等に適するやを調査するの最も適切なるを以て親しく實況を視察し又領事館に就て取調べたるもの即ち習慣、風俗、嗜好上より觀たる各商品の構造、形體、圖樣、配色等仔細に述べれば左の如し。

### 第一、構造

(一)蓋物よりは蝶番ひを撰び、就中最も多く彈機附を喜ぶ蓋し利便を喜べばなり、新奇巧妙を喜ぶ點もあり。

(二)箱類、抽斗類には總て堅牢なる錠を附ける様構造するを要す、如何なる小形のものにても容易に内容物を抜き出さるゝ虞なきを要する爲め、従て蓋物よりは蝶

番ひを好むなり。

美術的なるよりも實用的にして堅牢なるものを要す、外觀を顧ざるに非るも計算的なる露骨的なる北清人には美術を主としたる製作品の需要を求むるは難しノンセンスなり。

構造に對する嗜好の順序は丈夫、安直、便利、奇麗にして目新しさものなり、換言すれば耐久力(三)、直段(三)、便利(二)、美(一)、奇(一)。

### 第二、形體

方、圓……共に可なり、方は規則正しきより、圓は事圓滑を好む性情より共に嗜好す。

扁形……形體の扁平、扁長なるが如く、正形を失するものは偏するものとして之を好まず。

斜形……亦好まず、不規則不規矩なればなり。

三角形……好まず、三脚兒(陽物)に音通ずるを以てなり。

五角形……好まず。

六七角形……好まず。

八角形……大々的に之を好む、蓋し方形の工夫を加へられたるものとして之を好むなり、方、圓、形と共に喜ばる。

楕圓形……古來清國には這の形なし。

扇形……玩具の如きもの以外には多く用ゐず

下方大にして上方の小さくなれる形……此の形は古來より器具各種に用ゐられたるものにして今に至りても依然之を喜ぶ。

圓形、方形を正形と爲し長圓、長方形之に次ぎ玉角形、八角六角形、及扇面形、如意形、蝠蝶形、花朵形、小錢形、榴桃形又之に次ぐ。

清國人の家の造作、家具等には千遍一律、圓形か方形、或は眞直なる者を無意味に細かく種々に組立てたるものにして破損に際しても極めて修理し易きを主としたるもの多きを占む。

### 第三、圖樣

實 麒麟……走獸中にて最好的のものなり。

業 鴻雁……吉兆、信義ある點より大に好む。

管 鳳凰……飛禽中にて最好的のもの、之に梧桐を配するを要す。

見 鹿……福祿の祿と字音通ずるより之を好む又松樹を配するを可とす、又鶴を配すれば鶴の如く壽長くして鹿の福祿を併せ有し幾久しくも榮えんと表記とななるとかや。

公鷄(牡)……之に牡丹を配する時は功名富貴の記號となる、蓋し冠によりて官位の

高さを表はし、牡丹の富貴の花なるを以てなり、又之に紅鶏冠花を配すれば官位更に上るを意味す冠上冠を加ふればなり之に依て大に好む。

馬……吉祥なりとて之を好む、正月各戸窓上赤紙を貼りて「杏黄馬背上元寶」の句を書す。

清 蝠(蝙蝠)……福と字音相通するより之を好む。

實 鶴……壽の義となり之を好む。

樂 龍……高貴にして民間には用うべからずとして之を使用せず、會々之あるもトカ

管 ゲなどに類したる形にて用う、要するに強いて之を用ゐんとはせず、唯だこの

見 形は用うべからずと觀念して用ゐざるなり可ならず好まざるに非ず。

蝶……之を好む

金魚……之を好む、其形は支那金魚にして目の飛出したるものに限る。

牛……好む、天地を敬し、又祭祀の場合に之を用ゐ、又能く耕し家守の番守とな

るを以て吉とす、能の點より好む也。

象……關せず、蓋し西洋諸國より來る圖様にして不可なし。

鳥……は凶を意味す大に好まず。

清 宵鳥……陰惡、不吉、不孝の鳥として不好。

韓 燕……不具、不節、不慈の鳥としむ忌む。

實 狗……猛烈なるを嫌ふ故に好まず。

樂 鼠……之を好まず。

管 猫……之を好まず。

見 兔……好まず(男娼の意を含くむが如し)

鼈……龜は古來千鶴萬龜と稱し龜其物は壽福の記號として之を忌むには非ざるべけれど、龜に似たるものに、鼈なるものあり、多淫不倫の生物にして亡八と稱し極端に之を忌む、故に會々鼈に非ざる龜を書くも容易に鼈に似合ひ若くは

之を聯想し勝なるを以て之を避くるを要す。

騾子……好まず。

三仙……桃、柘榴、佛手柑、……大に好む。

清 三秋……海棠、桂花、竹、……大に好む。

韓 九如……三秋に六草花菊……蘭花……翠梅(臘梅)夜來香……僧道帽……玉針……を

質 加へたるもの……大に好む。

業 牡丹……開花は富、未開花は貴、の表彰……好む。

管 葫蘆……子孫繁榮萬代の表彰……好む。

見 玫瑰……薔薇、香あるを貴ぶ……好む。

水仙……節義の草花なるも形に表はれたること多からず……好む。

芍薬……梅……杏……荷花……葡萄……百合……瓜……柿子……松樹……芙蓉……

好む。

臭芙蓉……藤色……跏山虎……楓樹……梧桐(單有の梧桐)……好まず

海棠、靈芝、梅……併せ書くは甚可なり。

靈芝に松と鶴とを併せ書く時は齡を延ばすとて多く之を喜ぶ。

清 總て書様は洒麗たる、雅なる、脱俗なる若くは俗に言ふ意氣、粹と稱すべきものは

韓 不可なり、何處までも濃厚重密にして不意氣不器用なるを可とす、書様も大形なる

質 を要す。

業 要は老幼男女共通して使用し得る様なるに注意すべし、一枚一反のものを以て家族

管 中の何人にも共通し得るものにして本邦人の如く年齒男女に由りて柄、模様不差あ

見 ることなし。

書様は總て鮮明確的なるを要す、輪廓の明瞭なるは肝要なり、形狀正整を喜び曖昧なるを不可とす。

書様其物の何物たるやを一目瞭然として會得し得らるゝ底のものなるを要す又は色

の如きも濃重なるを可とす、書様は南畫にして乾隆、雍正時代のものたるを要す、人物を使用するも何處々々までも清國用なるを心懸けざるべからず、日本人物を畫くは無用、西洋人物も同様なり、人物は清國人の目に馴れたる支那人物なるを要す、又清國人の見聞に馴れたる歴史畫なるを可とす、半身像、首像などは清國人の嗜好する所にあらず。

實 縞柄は明割なる立棒縞の如きものを好む、或は大柄の格子縞も同様、絨類は全く不業 向（織物は木綿織物にても撚糸を用ひ光澤あるを要す）一般に圖畫を愛するものなり。

見 蝙蝠は蝠は福音に通じ鹿の祿音に通ずるを以て之を喜び、桃は長壽の靈藥として壽に擬し、福祿壽を表するに蝠鹿桃を以てするなり。

龍は帝室の記號として憚るも其足指を四本にして民間使用の器物に畫きたる者多し、近來外國より清國に輸入する商品に五指の龍を畫きたるものあれども格別之を

忌むるが如し。

又牡丹花は其富を取り竹蘭は其清雅を取り松柏は其常緑を取り仙雀、獅子は其貴を取

取る而して仙雀は文一品輔服とし獅子は武一品輔服と稱ふ。鯉魚は水に躍りて龍と成る…其高向の速にして遽然天に登るの意を取りて各々之を最好とせり。

實 飽迄忌厭するは龜、梟、兎なり。

### 第四、配色

見 黄…専ら皇室用にして他の之を用うるを許さず、但し滿洲の僧、道者亦黄色を用う。

紅…祝儀用の色なり、婚嫁の場合専ら紅色を用う、之は上下差なし。

青黒…共に混用す、冬用の色なり、上下の差なし。

白……不祝儀用の色なり、祭喪の場合に用う、武官の白腰帶をなすは白色は忠孝の色として皇上に對して盡忠の意を表する爲なり。

藍……用ゆ。

清の緑……好まず、殆ど絶無と謂ふべし。

韓の紫……須行、官吏、紳商は藍と併せ用う。

實 灰……大商人は藍と併せ用ひ小商人は單に灰色のみを用う。

業 大紅……は吉色と爲す。

管 黄……は君王の服色。

見 白……は素色。

淺黄(潮)洋妃(とき色)葵綠、袖月は雅色。

元青……黒紫

京紫……紺

石青……紺

羔綠……濃紫 好て衣服の色に用ゆ。

桃紅……桃色

荷灰……銀鼠

品藍……藍

清國人は喪中に白色を用うるの外總てに於て無色白色を忌み家具等に於ても如何なる木質のものも必ず色附けて之を用う。

現に近來清國人間に日本の竹細工の大に喜ばれ居るも白竹にて製したるものは一切

忌避し居れり。

衣服一般に商人農夫等を除くの外大に華美なる模様及色物を好み特に天津北京山西

地方の人は最も華美なる者を愛す。

### 第五、商標及文字の選擇

(1)總て物品は外部の好觀なるを喜ぶ、畫様配色等總て専ら全力を外面に傾注し外觀

の潤澤、水の滴たらんが如き迄の美なるを好む、之に反して内面内部は如何様なるも毫も關せず、日本製のもの往々内部に模様を附けるものあるも此等は無用なるのみならず清國人の嗜好に適せず。

清 韓 實 業 管 見

(2) 商標にして一旦清國人間の信用を得るに至らば品質の下るに至らざる限りは彼等は他に如何程の品物あるも容易に此より彼に移るものに非ず故に利口なる商人特に外國商人中其得たる商標の信用に憑れば多々益々品質を改良して其價格を上すも依然として顧客を引き付け得るなり故に商標にして一たび信用を得れば寸毫も其品質を下だす可らず多々益々改良して其價格を上げすも可なり。

(3) 清國向の織物は總て三十吋以上(清尺二尺に當る)幅なるを要す、是れ使用上好適なればなり。

(4) 白絹手巾、清國人にして男子は絹手巾を用ゐず之を使用するは婦人なり、而して白色は其絶對に好まざる所なるを以て白絹手巾の需用は殆ど絶無なり、白地綾織

模様入等白絹手巾(縫取等亦)は殆ど需要なし。

絹手巾は桃紅、深紅、淺黃、等の色を着くるを要す。

(5) 商品の價格を一定するを要す、清國人は價格の變動を好まず。

(6) 商標に重きを置き又招牌に着目するの風あり故に其嗜好迷信の特性を利用し其適否を案じ一度定めたる時は必ず之を變更すべからず。

(7) 日常の消耗品たる石鹼、煙草類には漢文字を附するは惜字の習慣上之れに使用するを好まず。

(8) 何物に限らず廢棄變更する如きこと稀にして新調流行等少し、一度行はるれば容易に推移せず、誇張として謂へば百年流行を改めずと言ふべきなり。

清 韓 實 業 管 見

(9) 北清の風氣文化の度は南清に比し特に西洋諸國并本邦に比し其度低下なり、從て物品に對する嗜好の度は美麗なるよりは堅牢を主とす故に西洋諸國の清國向商品を作るには特製なるが多し。

(10) 石鹼上等品にては本邦品は獨、佛産の敵に非ず、蓋し香氣の點に於て清國人の嗜好を繋ぐに足らざればなり。

香氣は麝香の方を西洋香水の香氣よりも好む。

下等品は香氣に關らず、廉價なるを以て賣行くものなり。

(11) 清國人は男女とも其兩足を豫め白手巾にて纏ひ而して後足袋を穿つものなれば白金巾手巾の需要少からず。

(12) 清國人は總て單數を厭ひて複(雙)數を悦ぶ、花瓶、鏡臺等にも凡て一雙なるを

要するが故に此等に印記すべき字、畫の模様等に於ても夫々左右兩側のものに適合すべき様するを要す。

(13) 各人眼鏡と小刀を所持すること

(14) 危險燐寸の行はる其所以は清國にては一本賣にして都合よろしければなり。安全燐寸は一箱宛ならざれば點火する能はざるものなればなり、危險燐寸は一寸

と何處に持出すも差支なく點火し得らるゝが故なり。

(15) 商標用の紙は黄若くは赤紙を用うるを可とす。

(16) 數字は總て複數を喜び單數を忌む、雙なる字は清人の喜ぶ所なり。

商標等に用うる文字中最も多く喜ばるゝは、福祿壽、雙喜(囍)、元寶、陞官、發財等を意味する文字或は圖畫を主に用う。

(17) 三角商標は…三角兒(三脚兒)に通ずるを以て失敗せり、故に利口なる商人は商標を作る以前に豫め圖案を關係各店に送り清國人の意見を徴して初めて之を發行するなり。

(18) 籃魚印紡績糸は市場を獨占せり、蓋し當初全く内容の重量を増加して發賣せしこと其主因なるが如しと……

燐寸の包装の如きも殆ど頭部露出せる迄に積込たるもの最好評を博す其實斯る包装は必しも其容數の多きに非ずして積込の法の不熟練に由るものなり。



畢竟是れ清國人の無智にして多慾に由るものなり。

(19) 近來大に卷煙草の需要増加せりと雖も清國人未だ其善惡を判別する能はず、徒に其名の字數の多少を以て之を上下するの風あり。

(20) 商標用の文字は漢字を可とす、洋字、和假名は無意味なり。

(21) 清國人として強ち價格の廉なる粗製品を好むに非ず、容易に其好尚を變ぜざる特性

實 はあれども自家に使用して利便なるものならんには優良なる商品を購入するに躊躇せず。

(22) 商標の鮮明なるを喜ぶ、不鮮明なるは内容の粗惡なるを想見するが如き傾きあり。

見

### 清韓實業管見終

明治三十九年九月二十五日印刷  
明治三十九年十月十五日發行



著 作 者

杉原榮三郎  
東京市下谷區北稻荷町十一番地

發 行 者

室越義之助  
東京市下谷區北稻荷町十一番地

印 刷 所

株式會社 秀英舍  
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

## 發行所

東京市下谷區北  
稻荷町十一番地

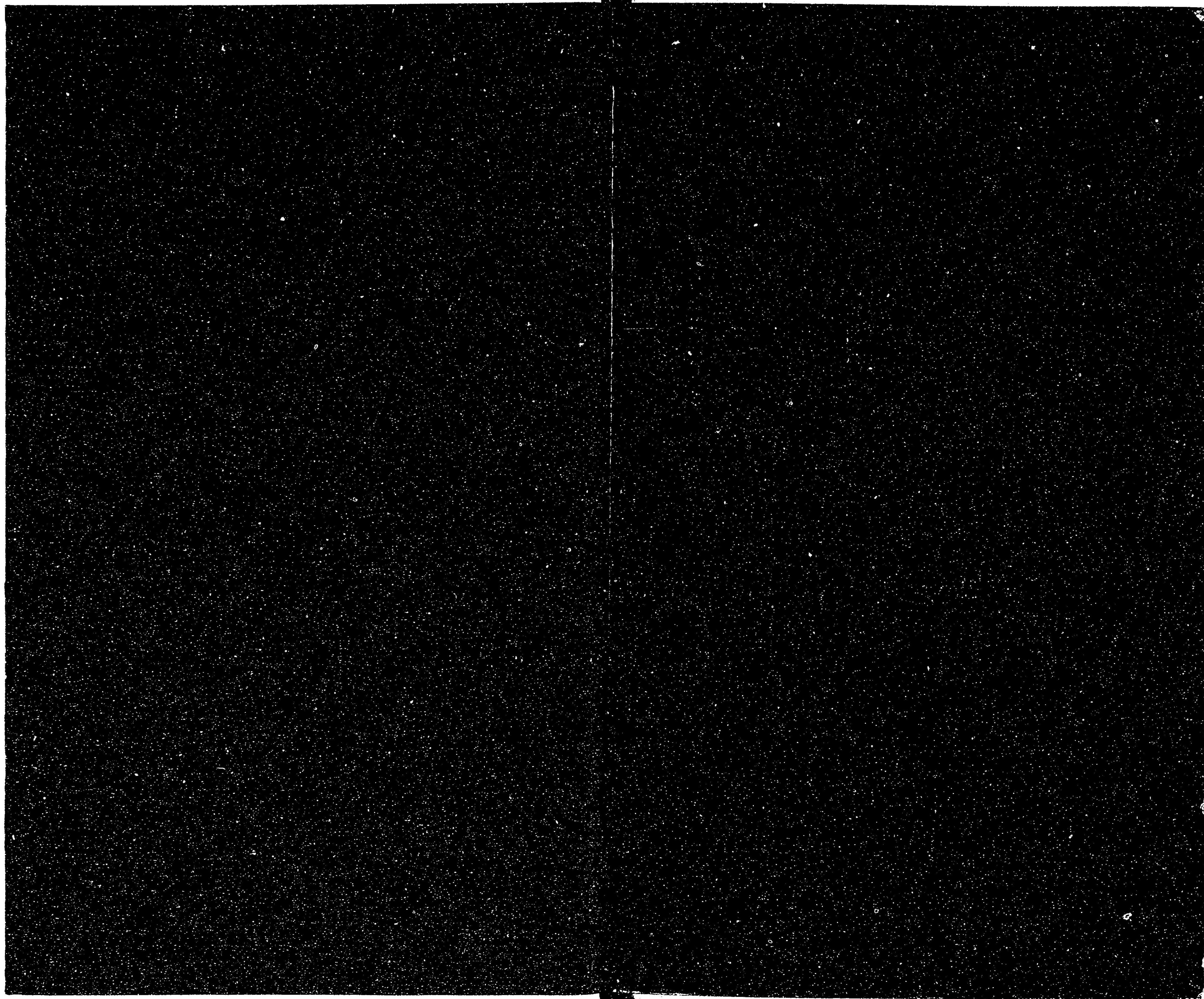
## 杉原商會

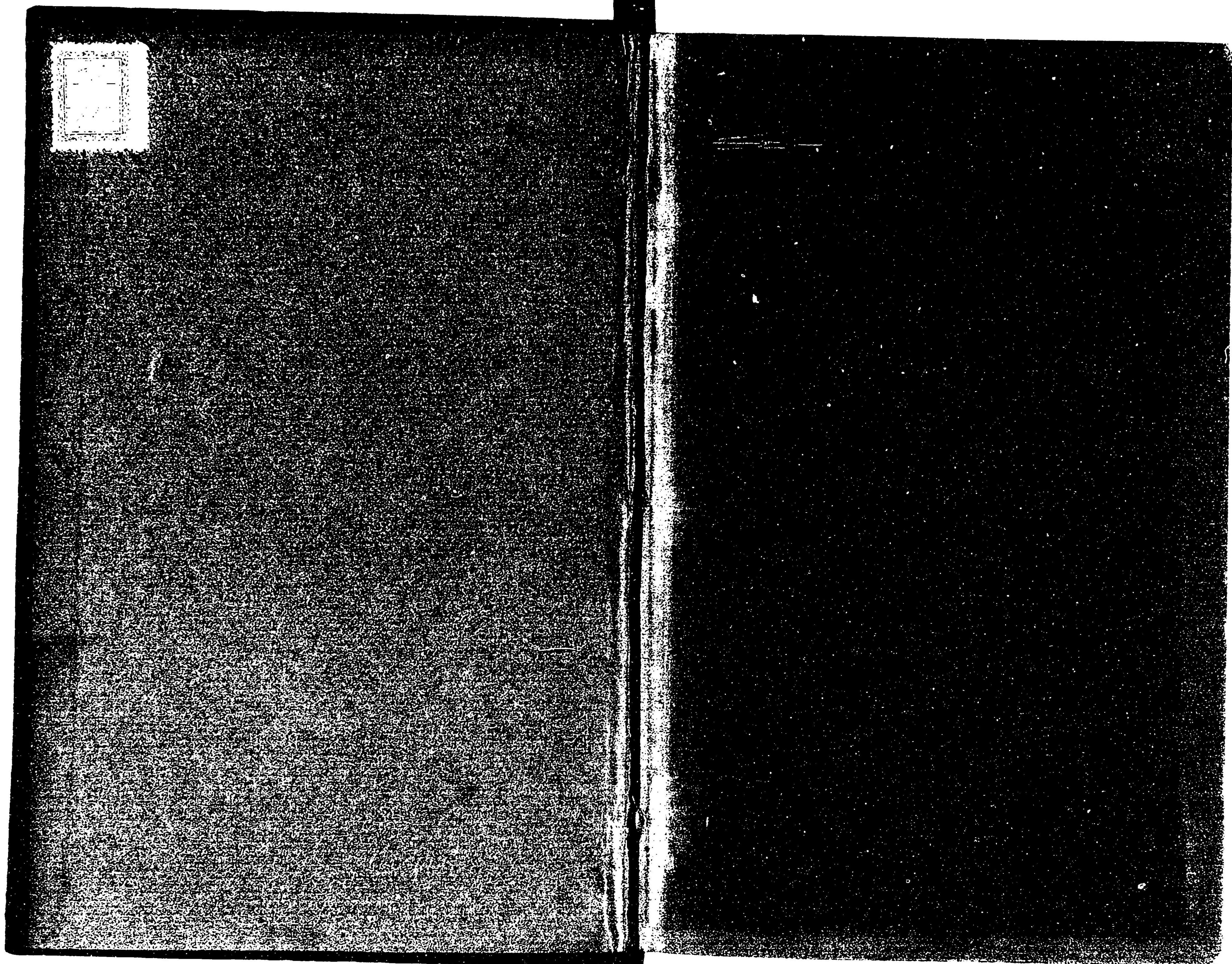
(電話下谷六百四十二番)

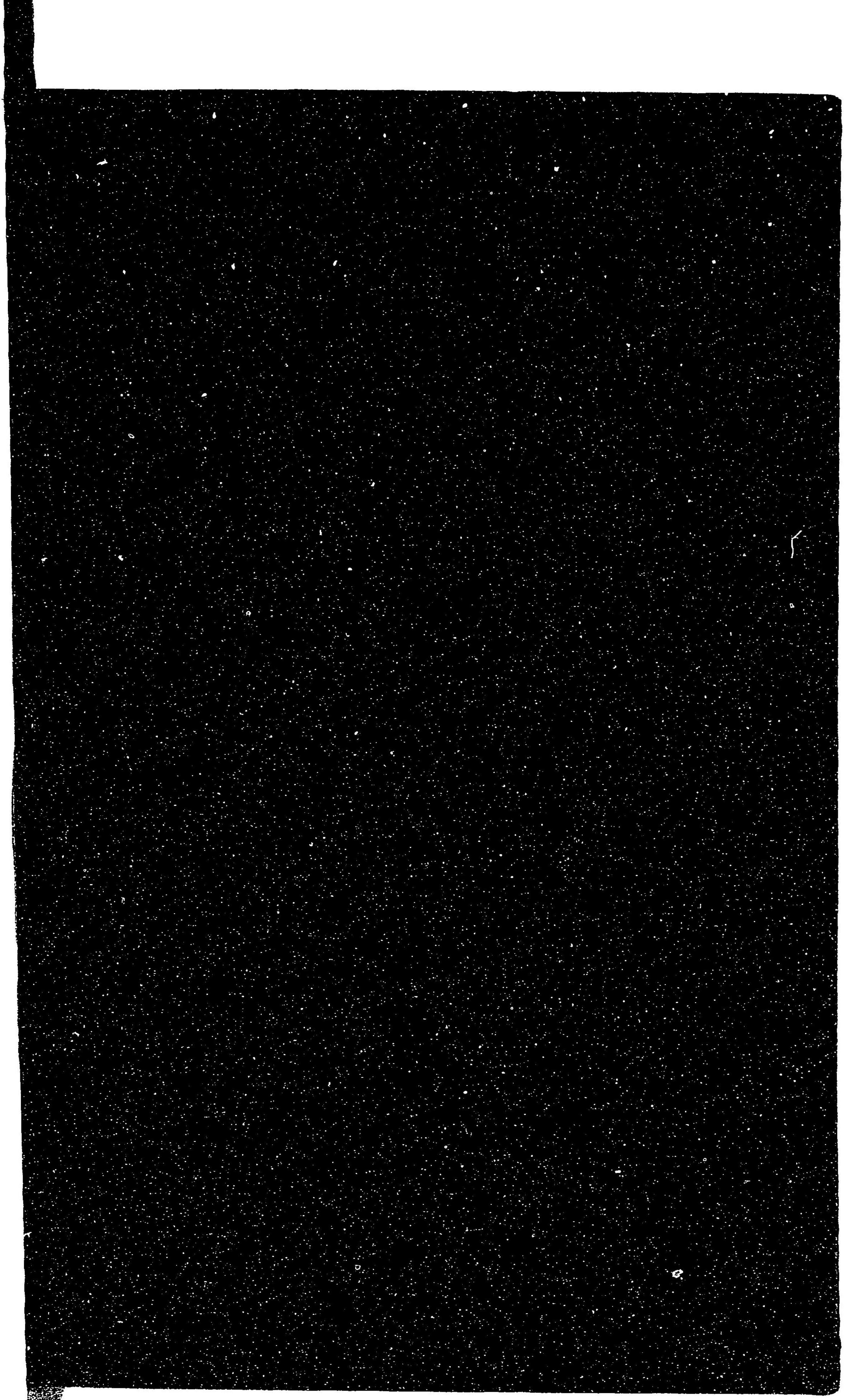
33  
550

44

50







33

550

041936-000-3

33-550

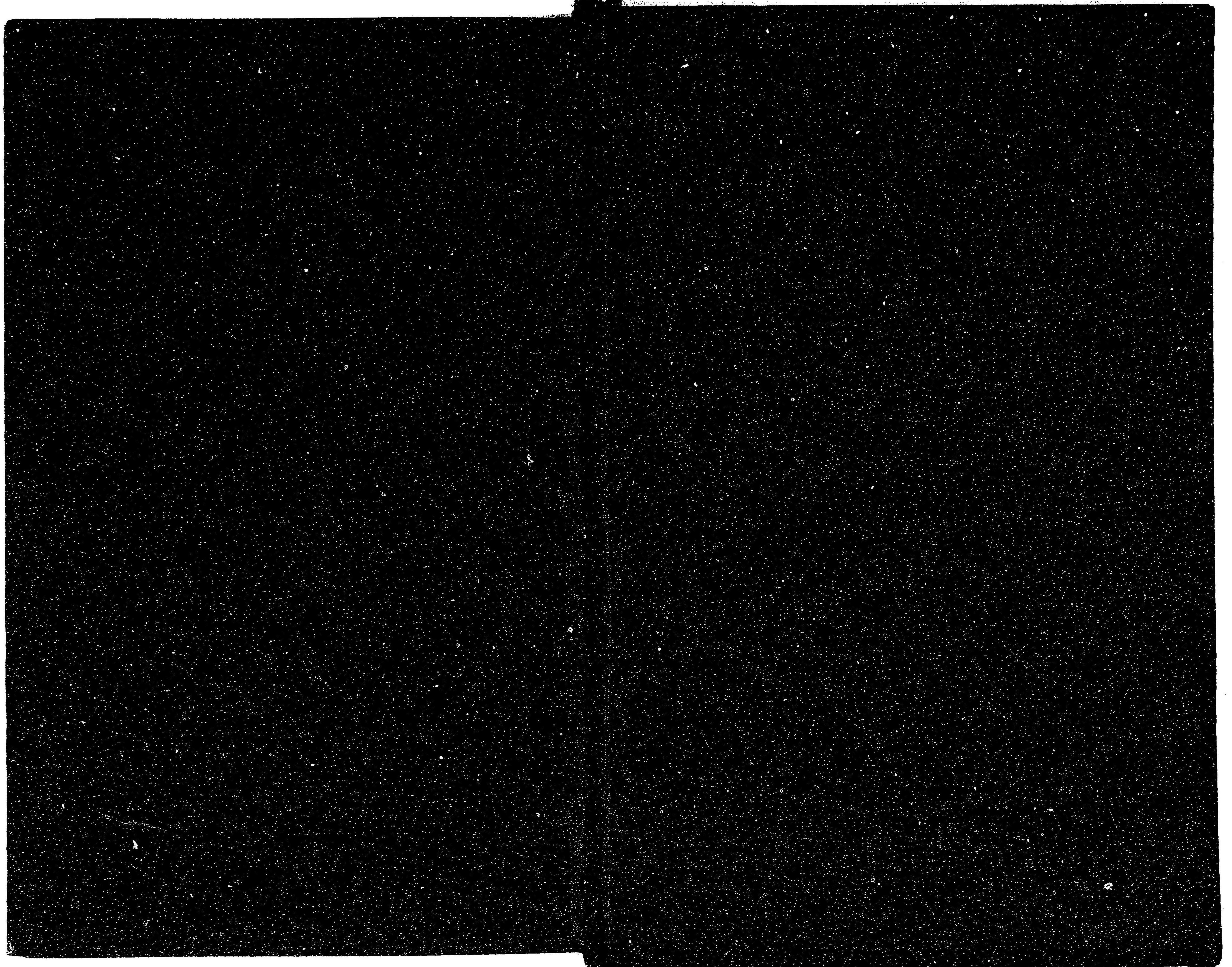
清韓実業管見

杉原 栄三郎/著

M39

BDI-0614





33  
550

